わが子のあゆみ

岐阜県PTAが作る子育て情報機関誌
1
2017.1 NO.446
初春号
第68巻4号

ぼうさいかみのごう（親子防災学習）

本校で大切にしている伝統は『あいさつ』『分団』『歯みがき』『防災』です。

防災の取組の一つに、毎月1回「ぼうさいかみのごう」の日として、防災について考える日を設けています。10月の「ぼうさいかみのごう」では、「親子防災学習」を行いました。今年は、①親子登下校による通学路の危険箇所点検、②災害時伝言ダイヤル・伝言板と公衆電話の使い方体験、③防災食試食の学習を行いました。

親子で体験することで、実際に被災した場合について考える機会となり、楽しく学ぶことができました。

御嵩町立上之郷小学校（みたけちょうりつかみのごうしょうがっこう）

●【学校の教育目標】

すすんでやりぬく上之郷の子

自ら学び考える子　豊かな心の子　たくましい子

がんばる子らの汗と笑顔と眼差しと

御嵩町立上之郷小学校

あいさつ

「おはようございます。」おじぎをして明るくあいさつをします。

分団

年上の子が車道側に並び、安全を考えながら2列で仲良く登下校します。

歯みがき（ペアジェル）

ペア学年で給食を食べた後、6年生が1年生に歯みがきの仕方を教えます。2年生と5年生、3年生と4年生でも行います。

防災クラブによる傷の手当て講習

御嵩町防災訓練に全校登校日として参加し、防災クラブの児童が傷の手当てや心肺蘇生法の仕方を広めました。

うぐいす会の読み聞かせ

保護者による読み聞かせサークルの皆さんが、本の楽しさを伝えてくださいます。

放課後子ども教室

今年から始まったこの活動では、軽スポーツ、尺八、英語など、いろいろな体験をしています。

わが子のあゆみ
2017.1 No.446 初春号
第68巻4号

発行：岐阜県PTA連合会
〒500-8824　岐阜市北八ツ寺町7　岐阜県校長会館内
編集：岐阜県PTA連合会広報委員会「わが子のあゆみ」編集部
頒価：200円　年間1,000円
この刊行物は一部岐阜県からの助成金を受けています。

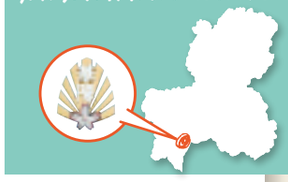
バックナンバーのお求めは
058（262）3257
県PTA連合会事務局へ

学校のたからもの

【ぎふしりつかようしょうがっこう】

岐阜市立華陽小学校

●住所　〒500−8404　岐阜市華陽5番1号
●TEL　(058)245−0178
●FAX　(058)245−0179
●メール　gisyo08@kayou-e.gifu-gif.ed.jp
●児童数 271名



学校の教育目標　自ら学び　学び合う力をもつ子

沿革・地域の自然や風土

岐阜駅のすぐ東にあり、学校の南側をJRの高架線路が、北側には名鉄各務原線が走っています。「自ら学び　学び合う力をもつ子」を学校の教育目標に掲げる本校は、「心の太陽をもやし　自分の華を咲かせよう」という言葉を大切にし、今年で創立八十三年目を迎えています。開校以来PTA活動がたいへん盛んで「華いきいき活動」と称するボランティア活動をはじめとして多くの場面で保護者のみな様が学校の教育活動を支えてくださっています。また、地域のみな様にも交通安全や、地域行事など様々な場面で支えられています。コミュニティ・スクールとなって三年目を迎え、さらに地域、家庭と協力して歩んでいける学校をめざしています。

学校の1 さからもの　ひまわりの笑顔のために　学校の取組

本校のシンボルフラワーは、ひまわりです。子どもたちが毎日、ひまわりのような素敵な笑顔でいられるような明るく、楽しい学校にしようと「確かな学力を身につけた子」「あたりまえのことが、あたりまえにできる子」「仲間と協力して生活していくことができる子」を重点目標として教育活動を実践しています。具体的には次のような取組をしています。

学力向上をめざして

四年生から六年生までの算数科の授業を少人数で行っています。二クラスを三つのグループに分けて、それぞれのグループの実態に応じた授業展開を工夫しています。子どもたちの「できた」「わかった」という思いを大切にした、きめの細かい指導を行っています。また、今年度から家庭学習の充実にも力を入れています。保護者へのアンケートによる実態の把握、それに基づいた具体的な家庭学習の方法を学年毎に通信等でお知らせする等、家庭と学校とが協力して行っています。

体力向上をめざして

二時間目と三時間目の間の二十五分間の休み時間を「にじの時間」と名付け、外で元気に学級の仲間と遊びます。毎週金曜日は「全校運動」として低中高学年にわたって縄跳びや持久走、おにごっこ遊びなどに汗を流します。月に二回、縦割り班である「にこにこ班」ごとで「にこにこ遊び」も行っています。六年生の班長が企画・運営し、ドッジボール、大縄跳びなど楽しく体を動かす遊びを通して、体力づくりと学年を超えた仲間づくりを行っています。

▲にじの時間。低中高学年毎で元気に外での遊びを楽しみながら体力の向上を図ります。

道徳・人権教育の充実をめざして

子どもたちの道徳的実践力の向上をめざし、本年度から全校体制で道徳科の研究に取り組んでいます。子どもたち一人一人の自己肯定感を高めていきたいという願いのもと、道徳科の授業を中心に全教育活動を通して取り組んでいます。具体的な取組としては、以下の四つが挙げられます。

〈道徳科の授業の充実〉

子どもたちの実態に合わせた授業展開と、その時間に身に付けた道徳的価値に沿った、子どもたちの具体的なよい姿、そこにある思いを価値付け、共有することを大切にしています。

▲道徳の授業の様子。活発に意見を交流することで、仲間のよさ、自分のよさに気づきます。その気づきが質の高い行動へと繋がっていきます。

〈スマイルタッチあいさつ〉

児童会主催で行っています。工夫のあるキャンペーンの効果もあり、校内でのあいさつの声がぐんと増えました。校長先生も毎朝、校門に立ち、登校してくる子どもたちをあいさつで迎えています。

〈ぽかぽかーど〉

学校行事やにこにこ遊び等を通して見つけた仲間のよさをカードに書き、「あったか黒板」に掲示しています。お昼の放送でも紹介しています。

〈ふれあいタイムの充実〉

年に二回、児童一人一人と行う教育相談の時間です。本年度は、内容をさらに充実するための検査も取り入れています。子どもたちの自己肯定感を高めていく基本は、子どもたちのよさを教師ができるだけたくさん把握し価値付けていくことだと共通理解し、担任を中心に全職員が子どもたちと活動を共にすることを大切にしています。こ

▲あったか黒板に貼られたぽかぽかーど。学校行事やにこにこ遊びで見つけた仲間のよさを書いています。

学校の2 さからもの　ひまわりの笑顔のために　PTAによる取組

本校は「華いきいき活動」と名付けられたPTA活動がたいへん充実しています。この活動は、校内の掃除への保護者の協力という小さな活動が発端です。それが、少しずつボランティアの幅を広げベルマーク回収、カーテンの洗濯、授業支援、読み聞かせ等へと発展し、現在に至っています。

本年度も本当に多くの取組を通して子どもたちの笑顔のために協力いただけましたが、その中で代表的な取組を紹介します。

華陽小の池の住人を救え！大作戦!!

その名の通り、校舎前にある池の掃除をしていただけました。七月二日という暑さ真っ盛りの中、和気藹々と活動できました。小さな池ですが、泥、石、砂、木くず等たくさんありました。参加者全員、汗びっしょりの大奮闘でしたが、きれいになった池を住人が嬉しそうにすいすいと泳ぐ姿を見て、満足感いっぱいで活動を終えることができました。反省会での「私の発案の取組に快く協力してくれる保護者が多くいたことを粋に感じ、感動しました。」という内海PTA会長のような取組が顕在化している姿の一つとして六年生による朝の落ち葉掃除ボランティアが挙げられます。

▲6年生による朝のボランティア掃除の様子。いつも全校をリードできている6年生。最高学年としての自覚と誇りが感じられます。

校歌

華陽小学校校歌

作詞　内野 三男
作曲　上野 忠平

一、花のように　豊かに薫る
心の窓よ　瞳明るく
仲よく伸びよう　仲よく伸びよう
肩くみ合って
ああ　ふるさと　みんなの母校
ぼくの　わたしの　華陽小学校

二、星のように　けだかく光る
まことの智慧を　遠くめざして
正しく磨こう　正しく磨こう
いざ眉あげて
ああ　ふるさと　みんなの母校
ぼくの　わたしの　華陽小学校

三、雪の校庭に　風吹く丘に
はね跳ぶ手足　ひるまぬ体
鍛えて作ろう　鍛えて作ろう
声はりあげて
ああ　ふるさと　みんなの母校
ぼくの　わたしの　華陽小学校

四、月に進み　日に新しい
輝く歴史　いま受け継いで
けがさず築こう　けがさず築こう
足音高く
ああ　ふるさと　みんなの母校
ぼくの　わたしの　華陽小学校

校庭及び校庭周りの除草作業

この活動も残暑厳しい九月二十五日に行っていただきました。二時間半ほどの活動でしたが校庭及び校庭周りが見違えるようにすっきりとしました。教師と保護者、子どもたちがいろいろな話をしながら楽しく活動できたことも大きな収穫だったと思います。

▲華陽小の池の住人を救え!大作戦!!
暑さをものともせず和気藹々と活動できる華陽小学校PTAのみなさんです。

学校の3 さからもの　ひまわりの笑顔のために　地域の協力

創立以来、本校は地域に支えられています。次のような行事を通して、子どもたちも地域の一員としての自覚を深めています。

ウォークラリー

毎年四月に行われます。子どもたちが、普段、登下校の安全を見守っていただいている「見守ります」のみなさんや保護者と、緒に「子ども110番の家」を歩いて回り、感謝の気持ちを伝えるというものです。ゴールの学校で「豚汁」をいただきます。いつも関わってくださるスタッフさんはじめ、華陽ジュニアリーダーの中学生がたくさんお手伝いをしてくれており、小学生時代お世話になった子が、今度は、スタッフとして次の世代に関わっていくという縦のつながりが生まれています。

▲ウォークラリーの様子。こども110番の家に感謝の気持ちをしっかりと伝えます。地域とのつながりがさらに強くなります。

地域文化祭

毎年十一月の文化の日の前後に地域のみなさんの作品と本校全児童の作品（保育園の園児、中学生の作品を隣接する本校と公民館を利用して展示し鑑賞する行事です。本校の子どもたちは授業の中で鑑賞する時間を確保しています。その他、保護者のみなさん、地域のみなさんも多く鑑賞いただけており、年齢を超えた交流の場ともなっています。同時に、PTAも、ブックリユース、ミニカフェ、体操服交換会バザーを開催します。収益は、日本赤十字社に寄附するなど、有意義な活動となっています。

夢づくりふれあいフェスティバル

本校の子どもたちと地域のみな様がふれあうことを目的としています。様々な遊びを工夫したり、夢をかいたモニュメントをつくったりと、その年ごとに実行委員会のみなさんが工夫を凝らした企画をしてくださっています。今年は、十一月二十七日に行いました。いつも、手作りのうどんを振る舞っていただけることから、この行事は「うどんの会」とも呼ばれています。

華陽ソーランの披露

本校は六月に行う運動会で四・五・六年生が「華陽ソーラン」を披露します。八月に行われる地域夏祭りや清水緑地公園での夏祭り、十月に行われる校区の市民運動会において、四・五・六年生有志が「華陽ソーラン」を披露しています。このように本校と地域とはインタラクティブな関係を構築することで、絆を更に強くしています。

▲地域文化祭で本校の琴クラブのメンバーと地域の和楽器クラブの方とのコラボレーション。息もぴったりです。

▼4、5、6年生による力強い華陽ソーランの様子。校内の運動会を始め、地域の行事でも披露します。

学校のたからもの

【ようろうちょうりついけべしょうがっこう】

養老町立池辺小学校

●住所　〒503−1275　養老郡養老町大巻1140
●TEL　(0584)37−2138
●FAX　(0584)35−3231
●メール　ikebe-es@town.yoro.gifu.jp

●児童数　176名(男子90名　女子86名　H28.10.31現在)

◀登校班のあいさつ

学校の教育目標　**人間性豊かで　たくましく生き抜く子どもの育成**

進んで学ぶ子　　心やさしい子　たくましい子

沿革・地域の自然や風土

本校は、養老町の南部に位置し、揖斐川沿いの輪中地域を校区として揖斐川・津屋川をはさんで海津市と接しています。

地域住民の方々の本校の学校教育に対する関心は高く、様々な面で本校を支えてくださっています。学習面での様々な支援だけでなく、登下校の見守りや校地内の環境整備など、本校児童の安心安全の確保と美しい環境の維持のためにもご尽力いただいています。特に今年度からコミュニティ・スクールとしてのスタートをしており、これまで以上に地域の方から様々な支援をいただけるようになりました。児童も地域行事に積極的に参加することはもちろん、高学年の児童が中学生と協力して行事のスタッフの一員として活躍する姿も見られます。

学校の教育目標

本校は、様々な教育実践を通して安心・安全でどの子も「学校が楽しい」と実感できる学校を目指しています。そんな本校や本校の児童が大切にしているのが『つながり』と『きらり』です。『つながり』とは、児童とその周りにいる人(校内の同学年の仲間、異学年の仲間、家族、地域の方等)との関係を表しています。また、授業中も仲間とのつながりを意識して互いの考えを深め合っています。つながりを通して、仲間となかよく活動し、学習する喜びを実感できる学校を目指しています。『きらり』とは、様々な場面での児童一人ひとりの頑張りを表しています。学校、家庭、登下校等での児童の姿について児童相互が、また、教職員、保護者、地域の方が児童の頑張りや成長に対してほめ、価値づけるものです。きらりを通して一人ひとりの児童の自分のよさの実感とともに仲間に対する思いやりの気持ちの醸成につなげています。

1 学校のたからもの　つながり&きらり宣言

本校では、一昨年度、児童会が中心となって『つながり&きらり宣言』(①毎日、つなボラをします②毎日、きらりを見つけます③だれにでもさん付けをします④だれにでもあいさつをします)を作り、その達成にむけて全校が一丸となって取り組んできており、今年度がその三年目にあたります。計三回の『笑顔いっぱいキャンペーン』を設定し、各学級ごとに「ほかほか言葉」や「ほかほか行動」の実現や「つながりボランティア」の実践を目標に取り組んでいます。また、どの学級でも毎日、帰りの会の時間に『きらりカード』を書いています。学級の中だけでなく、学年を越えて見つけた様々な場面での仲間のがんばりをカードに書き、交流しています。学級の掲示板にある個人のきらりカードは毎日確実に増えていっています。

▼笑顔いっぱいキャンペーンの発表

▲つながり&きらり宣言の発表

▲きらりカード

2 学校のたからもの　あいさつ

本校の朝は、集団登校の列から聞こえてくる登校班全員が一斉に声を合わせた「おはようございます」からスタートします。横断歩道で見守る教職員や地域の方に対して、また、昇降口で迎える教職員や仲間の児童に対してその姿を見かけるとすぐにリーダーのかけ声とともに出るあいさつの声です。個人としても他に対して積極的にあいさつができ、来校される方からも本校児童の気持ちのよいあいさつについてはほめていただけます。また、最近、六年生を中心に、「○○先生、おはようございます」のように相手を意識したあいさつが増え、下学年にも広がってきています。あいさつは『つながり』には欠かせません。

3 学校のたからもの　ファミリー活動(異年齢集団活動)

本校では、伝統的にファミリー活動が定着しており、今年は、一七六名の児童が六つのファミリーに分かれて活動しています。主な活動の場は給食時です。本校は給食棟に全員の児童や教職員が入って、ファミリーごとのテーブルで給食を食べます。配膳はファミリーごとに給食当番が学年に応じて決められた役割の仕事にすばやく取り組むことでほぼ十分間で完了します。食事中は静かに食べる時間と異年齢の仲間と楽しく話せる時間のけじめをつけて食べています。また、ファミリー遊びも行っています。給食の配膳を待つわずかの時間ですが、ファミリーごとの教室でゲームをしたり高学年による紙芝居をしたりなどの活動をしています。一か月に二回ほどは、青空タイム(業間休み)や昼休みにファミリーごとに遊んだりファミリー対抗のゲームや競技をしたりしています。ファミリー遊びで異学年の児童との『つながり』ができています。

▲ファミリー遊び

4 学校のたからもの　地域に密着した学習

宝暦治水薩摩義士の平田靭負翁終焉の地である校区の歴史であり、今はまさに治水の歴史でもあります。本校児童は、薩摩義士の偉業は校区の人々の心の中に感謝の気持ちとして生き続けています。本校児童もその気持ちを引き継いでおり、毎年四月に、薩摩義士春季慰霊祭に参加して薩摩義士を偲ぶ踊りを披露しています。

今年度は初めて一年生が参加しました。この踊りの指導のために地元の保存会の方々に来ていただいており、その成果として学校や地域の運動会でも五、六年生が踊りを発表しています。また、毎年、それらの運動会では、代表児童の治水太鼓の演奏に合わせて全児童、教職員、保護者や地域の方が一緒に治水音頭を踊っています。踊りの指導以外にも、地域の方に様々な面でお世話になってきたのですが、コミュニティ・スクールになったこともあり、これまで以上に地域の方にボランティアとして入っていただき、朝活動の時間(読み聞かせ)、教科の時間(書写等)、総合的な学習の時間(田植え、稲刈り、大豆の栽培等)、クラブの時間(英会話、華道、茶道、大正琴等)に指導していただいています。

来年度から土曜授業が十回実施され、その中でも地域に密着した学習を取り入れていきます。このような活動を通して地域との『つながり』ができており、地域を愛し、地域を大切にする子が育ちつつあります。

▲治水太鼓

▲地域ボランティアによる書写指導

薩摩義士慰霊祭▶

校歌

池辺小学校校歌

作詞　野田　満
作曲　上野　忠平

一、ふるさとに　朝日はのぼる
さわやかな　みどりの中を
かぎりなく　こころひろがる
空のした　かたをよせあい
のびていく　池辺の子ども

二、牧田川　川風わたる
松をふく　風の音にも
宝暦の　むかしをしのぶ
今こそは　ちからよせあい
いさみたつ　池辺の子ども

三、養老の　やまなみ高く
白雲の　流れるあたり
あおぎつつ　のぞみあふれる
きびしくも　あすをめざして
進みいく　池辺の子ども

学校のたからもの

【せきしりつとみのしょうがっこう】

関市立富野小学校

●住所　〒501−3202　関市西神野270番地1
●TEL　(0575)29−0005
●FAX　(0575)29−0596
●メール　tomino-e@edu.city.seki.gifu.jp

●児童数 96名

学校の教育目標

いきいきと　心ゆたかに　高まる子

沿革及び地域の自然・風土

本校は、明治時代の各地区での寺子屋に始まり、野邑学校、富野と神野の尋常小学校、富野国民学校を経て現在に至る歴史ある学校です。

関市のほぼ中心に位置していて、学校の近くを小野川・津保川が流れ、北に本城山・大仏山・高沢山を望む自然豊かな地域にあります。

保護者はもちろん地域の方々には「子どもを地域で育てる」という風土があり、PTA活動や学校行事のみならず学校の教育活動に積極的に参画し、それが子どもの育ちの基盤となっています。

つまり、本校は居ながらにしてコミュニティースクールであると言っても過言ではありません。

学校の取組み

上記の目標の具現を目指して、昨年度から「夢をもって新しい自分づくりに挑戦する」児童の姿を目指して取り組んでいます。

【自分づくり】

確かな学力とたくましい体力、その基盤となる望ましい学習習慣・生活習慣を身に付けた児童の育成を目指しています。

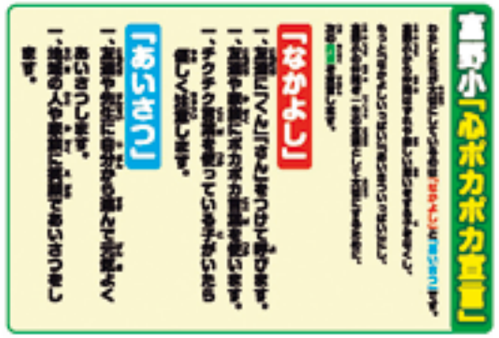
・自分で考えて仲間に伝え主体的に仲間と学び合う授業づくりを進めています。

・自分の体力に関心をもち、進んで体力づくりに取り組む習慣づくりのために、県の体力ミナモ認定に挑戦しています。

・学校と家庭の指導を結びつけた「家庭学習がんばり週間」の取り組みにより、家庭学習習慣の確立を図っています。また、保護者の協力を得て、家庭での生活習慣・食習慣の向上にも取り組んでいます。

【仲間づくり】

肯定的な人間関係を基盤に、問題を解決し、よりよい生活を創造するために、主体的にかかわり合う力の育成を目指しています。



・富野小「心ポカポカ宣言」をもとに学級や児童会の目標を掲げて取り組むことで、肯定的な人間関係づくりをしています。

・学級活動や児童会の縦割り集団活動の中で、互いに主体的にかかわりながら課題に気付き自分たちで解決していく力やよりよい生活を自分たちで考えて創り上げる力を育てています。

【夢づくり】

働くことを通して人の役に立つことの喜びややりがいを感じ、自分を生かし高めようとする態度の育成を目指しています。

・学級や児童会の係活動などを通して、働くことや人の役に立つことの喜びを感じ自己有用感が味わえる指導をしています。

・各種大会や作品募集に挑戦することを奨励し、校外での活動も含め、その成果を披露する場をもち、個性の発揮や伸長を図っています。

昨年度からは、体力向上もかねて関市小学生タグラグビー選手権大会に参加し、力を付けてきています。

▲タグラグビー選手権大会

学校のたからもの 富野小「心ポカポカ宣言」

平成二十四年度に児童会で検討され、翌年から続けられている宣言です。

四月最初の児童集会を富野小「心ポカポカ宣言」集会として、全校児童で宣言を確認します。児童会と各学級では、宣言を受けて目標づくりをし、その達成に向けて取り組んでいきます。

また、年間を通して「なかよし(異年齢集団)活動」を柱に、次のような取り組みをしています。

①一年生を迎える会

「ポカポカ言葉をたくさん使って、一年生といっしょに笑顔いっぱいの楽しい会にしよう」

上級生全員で新入生を温かく迎え、ゲームなどを一緒にする中で、一年生が笑顔で楽しい学校生活が送られるようにします。

②なかよしハイキング

「ポカポカ言葉をたくさんかけあって、最後まで楽しく歩ききろう」

チェックポイントでゲームをしながら、なかよしグループで励まし合って富野を巡ります。上級生は手本となりながら下級生を気づかい、一年生も汗まみれになりながらも歩ききります。

③運動会

「全力　協力　自分から」

児童会種目では、全学年の力を結集して、勝負に挑みます。勝ってもまけても「歯を食いしばり全力を出し切ったこと、みんなのために自分からできたこと」を讃え合います。

④富野っ子まつり

「仲間と協力して、アイデアいっぱいポカポカ言葉いっぱいの富野っ子まつりにしよう」

五・六年生が育てた米で餅を作り雑煮にして食べたり、なかよしグループごとにアイデアを凝らして準備したゲームを楽しんだりして、お招きした地域の方々との交流を深めます。

⑤心ポカポカ集会

(ひびきあいの日)の取組み

児童会スローガンについてアンケートを取り、それを受けた話合いを全校で行います。

学校評議員の方にも参加いただき、助言をしてもらいます。自分たちの中にある問題に気付いて解決に向けて行動し、本物の仲間を目指します。

▲「心ポカポカ宣言」集会

▲心ポカポカ集会

▲なかよしハイキング

学校のたからもの 富野っ子ふるさと学習

地域の方との交流や自然体験・農業体験を通して、地域のよさを実感したり、地域のくらしや人の生き方を学んだりする学習です。

①野菜づくり

低学年は畑での野菜づくりに取り組みます。地域の「畑の先生」に教えてもらいながら、夏はなす・ピーマン・トマト・カボチャなどを育てます。その中で、野菜づくりの工夫や大変さと収穫の喜びを学んでいきます。

②稲作

五年生は六年生にも協力してもらいながら稲作に取り組みます。「田んぼの先生」の指導のもと、もみまき・しろかき・田植え・稲刈りなどを体験し、食べること・働くことの大切さを感じる機会となっています。

③本城山登山

校歌にもある本城山に五年生が親子で登ります。頂上からは、富野を見渡すことができ、親子一緒にふるさとを肌で感じる貴重な体験になっています。

④お年寄りとの交流

六年生は、高齢者福祉についての学習を進めながら、地域の一人暮らしのお年寄りや福祉施設の方々との交流を行っています。地域を支えてきてくださった方々に感謝の気持ちが育っています。

この他に、三年生はギフチョウの観察、四年生は牛舎体験やウサギの飼育を、五年生は地域の環境学習として鮎やホタルの学習、水質調査などを行っています。

このように、本校の特色として人と共に主体的に生きる力を育てる教育活動を展開しています。

▲野菜づくり

▲お年寄りとの交流

校歌

富野小学校校歌

作詞・作曲　富野小学校職員

一、本城山の　松風が　せせらぎが
私に今日も　呼びかける　呼びかける
仲よしこよしで　元気よく　青い空
手を取り合って　知恵の輪を　勢いで
高く大きく　かかげよう　のりきろう
富野の子らよ　山の子よ　富野の子らよ　川の子よ

二、津保の流れの　僕らに今日も　輝くひとみに
若あゆはねる　強くおおしく　富野の子らよ

学校のたからもの

【たじみしりつへいわちゅうがっこう】

多治見市立平和中学校

●住所　〒507−0826　多治見市脇之島町1丁目1番地
●TEL　(0572)22−7265
●FAX　(0572)21−2120
●メール　j-heiwa@city.tajimi.lg.jp

●生徒数　152名

学校の教育目標　**自立と社会貢献**

沿革・地域の自然や風土

本校は、昭和二十二年に「多治見市立平和中学校」として創立されました。学校は多治見市の南に位置し、校舎は豊かな山の木々に囲まれた静かな場所に建っています。

二〇〇七年八月十六日には、日本国内の最高気温記録（当時）となる四十・九℃を観測しています。

▲日本最高気温

学校の教育目標

学校の教育目標は「自立と社会貢献」です。深く考え、正しく判断し、たくましく行動する生徒の育成を大切にしています。自立に向け、社会性（規範意識・向上心・創造性・人間関係）を高めることを目指しています。

◇自分を磨く〈規範意識の醸成〉
◇仲間と磨きあう
〈向上心、問題解決能力の向上〉
◇社会で磨きをかける〈人との関わり、関係の構築〉

1 学校のたからもの　平和学習

本校では、修学旅行において平和学習を行っています。戦争は、生徒にとってテレビや本でしか知らない遠い過去のことですが、真実を知ってこそ、校名の『平和』の名前の重みが分かるのではないかと考え、平成十二年度から広島市を訪問しています。

事前学習は、四月から始まります。『総合的な学習の時間』や教科の授業の中で、過去の戦争のことや戦争中の生活について調べたり、千羽鶴を折ったりすることを通して大まかなイメージを持ち、広島市を訪れます。

▲平和学習

当日は、広島被爆者援護会の語り部の方に説明をしていただきながら、碑めぐりや原爆資料館の見学を行います。事前学習をしている生徒たちも、語り部の方から戦争や原子爆弾投下の時の様子などについて直接聞くと、次第に口数が少なくなり、その頃に思いを馳せる姿が毎年見られます。

その後は、語り部の方たちへの感謝の気持ちも込めて、毎年平和祈念合唱を行っています。平成十九年からは、原爆の惨禍からよみがえった被爆ピアノの伴奏で、『HEIWAの鐘』などを披露しています。広島という地に立って歌う合唱は、生徒の心を揺さぶり、感極まりながら歌う生徒もいます。そんな貴重な体験ができる修学旅行だからこそ、戻ってくると「本当に行って、たくさんの貴重なことを学ぶことができた。」と多くの生徒が口をそろえて言います。これからも本校で大切にしていきたいことの一つとなっています。

2 学校のたからもの　ボランティア活動を通しての社会貢献

ボランティアの募集があると多くの希望者が集まり、生徒たちは生き生きとした表情で取り組んでいます。本校には、特色のあるボランティア活動がいくつかあります。

毎年行われている「多治見市花火大会」の翌日には、朝六時に近くの公園へ生徒・保護者・教職員が集まり、土岐川周辺のゴミ拾いを行います。前夜に打ち上げられた花火の破片がたくさん落ちていますが、生徒たちの手によってきれいに片付けられます。前夜の花火の美しさとはまた違った清々しい清掃風景です。

また、例年十二月には、平和中校区にお住まいの「独居老人」の方の家を三年生の生徒たちが訪問し、「大掃除のお手伝い」を行っています。「手の届かない場所や重い物を動かしての掃除など、とても助かっています。」と毎年とても喜んで頂いています。

▲花火大会翌朝清掃

校歌

平和中学校校歌

作詞　各務 虎雄
作曲　米田 天海

一、姿けだかき　平和富士
木々のこずえのみどり濃く
とわの栄えの色深し
進みゆく世にさきがけて
大空高く照りわたる
郷土の文化　われら築かん

二、陶の都の朝風に
土岐の流れは青白く
清き光をたたえたり
七つの海の波わけて
もたらす富の限りなく
郷土の幸をわれらひらかん

校内でのボランティアには、「プチ・ボラ」という活動があります。昼休みなど、わずかな時間を利用して行うボランティア活動です。主に花壇の花の植え替えや学校内の清掃作業を行います。花の苗植えを実施するための呼びかけに、一〇〇名ほどの生徒が集まります。さすがに生徒のパワーは力強く、七〇〇株ほどの苗を昼休み時間内に植えきることができました。

▲プチ・ボラ（花の苗植え）

▲親子奉仕作業

3 学校のたからもの　PTA活動から生まれる親子の絆

PTA親子奉仕作業

毎年九月の第一土曜日に、PTA行事の一つとして「親子奉仕作業」を実施しています。作業内容は、「グランドの除草・整備」「通学路の草刈り」「校舎周り清掃」などを行います。九月中旬に行われる体育祭を気持ちの良い美しい環境で実施できるよう保護者・生徒・教職員が力を合わせ取り組みます。生徒はグランドの草抜きや石拾いを行います。「草刈り機」「高圧洗浄機」など危険を伴う作業においては、保護者の方に担当して頂いています。

残暑厳しい中での作業になりますが、終了後にPTA役員の方から「かき氷」が振る舞われ、生徒たちはもちろん大人たちも大喜びです。

▲親子奉仕作業かき氷

体育祭PTA種目「親子対抗綱引き」

体育祭種目の中に「親子対抗綱引き」があります。五年前から実施されています。競技はエキシビションとして行い、「保護者対各学年生徒」が力を競い合います。

今年度の結果は三学年とも、保護者チームの圧勝でした。競技は大変に盛り上がり、生徒も保護者も笑顔いっぱいで、とても爽やかなひとときになりました。

▲親子対抗綱引き

Contents

岐阜県PTAが作る子育て情報機関誌
平成29年1月1日発行／第68巻4号
通巻第446号

わが子のあゆみ

2017.1 No.446 初春号

表紙　御嵩町立上之郷小学校

学校のたからもの　1
岐阜市立華陽小学校／養老町立池辺小学校／関市立富野小学校／多治見市立平和中学校

わが家の宝物　可児市・御嵩町中学校組合立共和中学校PTA　会長　渡邉 隆　9

特集　「自己肯定感を育むために」　11
岐阜市立市橋小学校PTA　会長　中村敏徳
可児市立広見小学校PTA　副会長　長井知子

家庭教育応援団！㉔　17
実践紹介1　土岐市立妻木小学校
実践紹介2　養老町立東部中学校
実践紹介3　岐阜市立芥見小学校

シリーズ「療育」㉙　岐阜県立東濃特別支援学校　19

お弁当の日　岐阜市立岩野田北小学校PTA　21

保健室ノート　海津市立海西小学校　養護教諭　秋澤かおり　23

私の先生㉔　恵那市立中野方小学校　教諭　足立悠里花　25

子育て半生記　多治見市立市之倉小学校PTA　井藤あい　27

関市のPTAふれあいニュース [vol.4]　29
関市立下有知小学校PTA
関市立富野小学校PTA
関市立寺尾小学校PTA
関市立上之保小学校PTA

私が出会った1冊の本【続29】　31
中津川市立付知南小学校PTA　北原知佐子
大垣市立上石津中学校PTA　川本秋美

わが家の約束　33
下呂市立東第一小学校PTA　副会長　兼山壽伸
関市立富野中学校PTA　小山裕子

子の思い・親の願い・教育の窓　35
子の思い
高山市立北小学校　3年　小池峻太
瑞浪市立日吉小学校　6年　眞鍋　晃
海津市立平田中学校　2年　伊藤謙伸
親の願い
郡上市立明宝小学校PTA　会長　髙田賢吾
大垣市立星和中学校PTA　会長　伊藤宏記
教育の窓
岐阜市立徹明小学校　教頭　安達芳雄
飛騨市立山之村中学校　教諭　桑原雅典

親子ではてな　40
インフォメーション　41
お試しクッキング　岐阜県学校栄養士会　42
あったかすいとん汁

ふるさとの伝承　43
揖斐川町立坂内小中学校

きらり！キッズ！　45
岐阜市立岐阜小学校

夢中！熱中！我らが部活　47
北方町立北方中学校

私たちのPTA　49
下呂市立金山小学校PTA

わが家の宝物

可児市・御嵩町中学校組合立共和中学校
PTA会長　渡邉　隆

ほがらかな空気

～「さっさと風呂入ってよ」「はぁ？先入るって言ったの姉ちゃんやん」という会話。毎日のように聞いている気がする。

私には二十一才の姉と十九才の兄がいる。歳が大きくなっても私たちはすごく子どもみたいな事ばかりしている。でも、そんな毎日が楽しい。時にはみんなで喧嘩してずっとイライラするときもある。だけど、いつの間にか普通に笑い合って会話している。そんなとき、ほがらかな空気を感じ、やっぱり家族なんだなと思い知る。姉と兄は帰ってくるのが遅い。静かな空間がとても寂しい。でも、私の誕生日には早く帰ってきてくれてプレゼントも買ってきてくれる。そんな姉と兄にとても愛を感じた。

毎日のように喧嘩をする。でも毎日のように笑い合っている。そんな姉と兄が私は大好きだ。～

これは、中三の娘のエッセイですが、ここに妻と私が加わってさらに賑わしくなる、このわが家の風景が何よりの宝物です。いつの日か子ども達が巣立ち、この会話を楽しむことができなくなる日まで、この「ほがらかな空気」を大切にしたいと思います。

特集

自己肯定感を育むために

岐阜市立市橋小学校ＰＴＡ
会長　中村 敏徳

社会に貢献できる人を育てることにおいて、「人とのつながり」や「社会性」を身につけるとともに、自己肯定感や自己有用感など自尊感情を高めていくことが大切といわれています。

自己肯定感、それは「自分が好き」という気持ちをもっていることです。自分のいいところも、ダメなところもひっくるめて、自分を認め、肯定する気持ちです。

自分はそのままで愛され、喜ばれ、価値のある人間であるという、自分自身に対する信頼感を持つことにより、自分を愛する気持ちや自分を大切に思う気持ちというのもそこから生まれてきます。

自分を大切に思えるからこそ、他の人も大切に思える。自分を愛するからこそ、他人にも思いやりを持てる。

この自己肯定感を育てることこそが子どもたちが自分を大切にし、他者を大切にすることにつながっていくのだと思います。

日本の子どもたちの自己肯定感

少し前の調査になりますが、内閣府の二〇一四（平成二十六）年版「子ども・若者白書」では、特集として国際比較調査で日本の若者の意識を他の国の若者と比較しています。

それによると、日本の若者は他国の若者に比べて、自分に対する満足度が著しく低く、自分の将来に明るい希望を持てないでいることがわかりました。

調査は二〇一三（平成二十五）年十一～十二月にかけて、日本・韓国・アメリカ・イギリス・ドイツ・フランス・スウェーデンの七ヶ国の十三～二十九歳の男女を対象にインターネットをとおして実施し、各国約千人程度から回答を得ました。

まず、「自分自身に満足している」と回答（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計、以下同じ）したのは、アメリカ八六・〇％、イギリス八三・一％、フランス八二・七％、ドイツ八〇・九％、スウェーデン七四・四％、韓国七一・五％だったのに対して、日本は四五・八％と半数にも達しませんでした。また「自分には長所がある」と回答したのは、アメリカ九三・一％、ドイツ九二・三％、フランス九一・四％、イギリス八九・六％、韓国七五・〇％、スウェーデン七三・五％に対して、日本の若者は六八・九％とやはり最低でした。他の国の若者に比べて日本の若者は極端に自己肯定感が低く、自分に長所があると感じる割合も低いようです。

一方、最近一週間のうちで「ゆううつだと感じた」ことがある者は、日本が七七・九％でトップ。次いで韓国六三・二％、イギリス四五・六％、スウェーデン四二・一％、アメリカ四一・〇％、フランス三八・六％、ドイツ三六・九％でした。韓国を除けば他の国の若者は半数以下なのに対して、日本は八割近くにも上っています。また、「自分の将来に明るい希望を持っている」のは、アメリカ九一・一％、スウェーデン九〇・八％、イギリス八九・八％、韓国八六・四％、フランス八三・三％、ドイツ八二・四％に対して、日本は六一・六％でした。

なぜ、日本の若者は自己肯定感が低いのでしょうか。

同白書は、家庭・学校・職場などの満足感に着目しています。やはり、いずれの満足度も日本が一番低くなっています。これに対して、自己肯定感と周囲への満足度の関係を分析すると、「親から愛されている」と思っている者の五〇・一％は自分に満足しているのに対して、そうでない者は二五・三％にとどまっていました。同様に、学校や職場に満足している者ほど自分に満足している割合が高くなっています。

同白書は「家族関係、学校生活、職場生活が充実し、満足している若者ほど、自己肯定感が高い」と指摘したうえで、保護者自身については「自己肯定感を持ちながら子どもと向き合える環境づくり」が、学校については「教師が子どもたちと十分に向き合い指導できるような環境づくり」が重要であると提言しています。家庭や学校を安心して暮らし、学べる場にしていくことが、子どもたちの自己肯定感を高めることにつながっていくようです。

わたしにとってとくべつなきみへ

自分がどんなに大切な存在か、私にとって特別なきみ。ここで一冊の絵本を紹介します。これはマックス・ルケードの「たいせつなきみ」の一部です。

あるところに木で出来た小人たちが住む村がありました。その小人たちはみなエリという彫刻家がつくりました。小人たちは朝から晩まで同じことをしていました。

「素敵だね」を意味するお星様シール☆と、「ダメな奴」を意味するだめじるしシールをおたがいに張り付け合うということを1日中していました。

主人公のパンチネロはだめじるしシールばかりをはりつけられてすっかり自信をなくしていました。パンチネロは家を出るのもいやになっていました。

「どうせぼくはだめな小人だからな」

パンチネロはそんなふうに自分のことを思うようになりました。

ある日、パンチネロは自分たちをつくって

くれたエリに会いに行きました。エリはパンチネロにこう言ってくれました。

「みんなが君をどう思うかなんて本当はどうでもいいことさ。大切なのは君たちをつくった僕がどう思うかってことさ。そして、私はおまえのことを大切に思っているよ。」

パンチネロはそう言われて、とても嬉しかった。今までそんなふうに言われたことがなかったから。

パンチネロは「どうすればだめじるしシールがくっつかなくなるの?」と訊いてみました。

「それはね、みんながどう思うかよりも、わたしがどう思うかの方が大切だと決めればいいんだよ。シールがくっつくようにしていたのは、みんながどう思うかを気にするおまえ自身なんだよ。おまえが私の愛を信じたならシールなんてどうでもよくなるんだよ。」とエリはやさしく教えてくれました。

エリの言葉は本当だ、パンチネロは心からそう思いました。

そのとき、だめじるしシールがはがれ落ちました。(おしまい)

どうでしたか、皆さん。

私たちも子どもたちにたくさんのだめじるしシールをくっつけてはいないでしょうか。

だめじるしシールをたくさんつけられた子どもはどうなるのでしょう。自信をなくす?元気をなくす?自分のことをダメだと思い込む?

じゃあ、「いいね!素敵だね!」のお星様シール☆をたくさんはってあげたら?

それは嬉しいでしょう。自信だってつくでしょう。もっとお星様シールが欲しくなって、ますます頑張ってくれるかもしれません。だめじるしシールをはるのに較べたら一〇〇倍いい。

でも、絵本「たいせつなきみ」ではシールをくっつけない心、シールがくっつかない心が大切と教えてくれています。

たとえキラキラのお星様シール☆でも、シールをもらえない心配とか、だめじるしシールをくっつけられる心配があるところでは本当の意味ではゆっくり、のんびり、心から安心することは出来ません。なんのシールも貼られる心配がない。そういう場所であってこそ心は本当に安らげるものです。そしてシールを貼られない場所、それが家庭であってほしい。ダメでも失敗してもあたたかく受け入れてもらえる場所、それが家庭であってほしい。私たち保護者自身が自分で自分にだめじるしシールを貼って落ち込んでしまったり、我が子にだめじるしシールを貼って落ち込んでしまったり。だめじるしシールを捨ててしまえば、もっと明るい今が、もっと楽しい今があるのではないでしょうか。そしてそれが明るい未来を連れてくるように思います。

だめじるしシールなんて本当はありません。そこにいるのはありのままの子どもであり、ありのままのあなたです。気に入らない現実もあるでしょう。受け入れたくない事実もあるでしょう。

例えば自分の顔。目がもっとパッチリしていたら、鼻がもう少し高ければなぁ~などなど。でも、人がどう思うか、そんなことばかり気にしてるより、美人じゃないけど、この顔を好きになることはできる。美人じゃないけど、にっこり笑うことはできる。

実はその方が美人であるより人に好かれたりします。結果、よかったってことになるような気がします。生まれつきこの顔だし。気に食わないところを悩んだところで、男前になるわけでなし。ありのままの自分を受け入れたら、今までは見えていなかったいい所がいっぱい見えてくる。欠点にこだわっていたら見えなかったものがあります。こんな自分は嫌だ、こんな自分を変えようという方が精神的にはずっと楽です。なぜなら、それは本当の自分から逃げようとしているからです。

勇気を出して、ありのままの自分を受け入れられるようになった時、ありのままの子どもを受け入れられるようになります。

私にもダメなところがある、あなたにもダメなところがある。ダメなところはちょっと困るけど、許し合えば大丈夫だよね。私にも弱いところがある、あなたにも弱いところがある。だから支え合っていこう、助け合っていこう。みんな不完全だからこそ、許し合えるし、支え合えるし、助け合える。そして笑い合える。

以前、公共広告機構のCMで「命は大切だ。命を大切に。そんなこと何千何万回言われるより『あなたが大切だ』。誰かがそう言ってくれたら、それだけで生きていける。」というのがありました。本当にそうではないでしょうか。今、子どもたちにとって一番必要なメッセージとは「あなたは私にとってかけがえのない大切な大切な存在なんだよ」という心からの言葉や関わりだと思います。子どもが自分自身を大切に思う気持ち、その気持ちがあるからこそ人のことも大切に思える。

「自分は大切な存在だ。自分はそのままで価値のあるかけがえのない存在なんだ」と、普段の親子関係の中で、子どもたちに「あなたがどんなに大切か」を伝えていただきたいと思います。

体は食べ物で、心は言葉でできている

可児市立広見小学校PTA
副会長 長井 知子

今でこそ私は、子どもが幼稚園の時はPTA会長を、小学校に通う今はPTA副会長(兼母親委員長)、市PTA連合会と県PTA連合会では母親委員長をさせて頂いておりますが、私の小中高時代は、生徒会や学級委員等をした事は一度もなく、どちらかと言うと目立つ事は好きではなく、人の影に隠れているのが好きな子どもでした。

転機

私は高校卒業後受験した第一志望の短大が不合格に終わり、浪人は許されなかったので、違う短大に進学しました。が、入学してみたものやはり夢は捨てきれず、私は数ヵ月後両親に「退学して浪人したい。」と覚悟を決め話しました。しかし、許されませんでした。その時に私は決めました。仮面浪人(学校に通いながら受験勉強をする事)をしようと。在学している短大の勉強をしながら私は受験勉強をし、結果、現役時には合格できなかった第一志望の短大に合格しました。特に自分に自信があった訳ではない私が、「私ってやればできるんだ!」と自信ができたのはこの時でした。想定外の出来事に驚きながらも入学を許してくれた両親には、今でも感謝しています。私は失敗を経験しそれを乗り越えた事で、自分を信じる事ができるようになりました。

魔法の言葉

私は子どもの頃からどんな時も母から「大丈夫!何とかなる!」と言われて育ちました。だからでしょうか、私は楽観的で、物事を前向きに捉える事が得意です。言葉とはすごいですね。そんな「大丈夫!」という魔法の言葉に支えられて、私にとってチャレンジは特別の事ではなくなりました。「大丈夫!」という言葉は、大人になった今もなお私の中に生き続け、そして私の子どもへと受け継がれています。

在り方

出来事はひとつであっても、自分の捉え方次第で、その出来事は良くもなり悪くもなります。例えば役員。プラスに捉えれば、「色々な人に出会える!」「色々な経験をさせて頂ける!」等ワクワクする事ばかりです。私は

プラスの考え方が好きなので、何事もプラス面を観るようにしています。

また、色々な事にチャレンジする事で、できるようになる事も増えます。少しずつでも成長している自分を感じる事ができるのは嬉しくもあります。そしてそこにもまた自信が生まれます。

自分を信じる

先程お話をさせて頂いた通り、私は幼稚園でPTA会長、小学校で副会長（兼母親委員長）、市と県のPTA連合会で母親委員長をさせて頂いております。どの時も、お声かけ頂いた事への驚きと「私にできるかな？」という不安やプレッシャーはもちろんありますが、有り難い事だと思いお引き受けさせて頂いております。未熟な私をいつも温かく見守って下さっている関係者の皆様には、この場をお借りしてお礼申し上げます。

ですが、こんな前向きな私でも不安になる事はあります。不安を感じると人間は動けなくなりますが、そんな時は敢えてチャレンジするようにしています。危機管理は大切だとは思いますが、必要以上の心配はしない事にしています。それは、先の事は結局誰にもわからないからであり、まずやってみない事には何もわからない、何も始まらないからです。もし、失敗したとしても、そこから何かを学ぶ事ができます。また、失敗したからこそわかる事もあります。逆に言えば、失敗してもそれを次へ生かせば、成功にもなります。例えその時生かせられなくても、そこには成長した自分があり、その後の人生にきっと役立つ時がきます。ですから、失敗は何も怖い事ではありません。人間性も深まり、視野も広くなり、精神的にもたくましくなり、涙を流した分人の痛みがわかる人間にもなれます。

私は自分の心のどこかに、仮面浪人した事で培う事のできた、「自分はきっと乗り越えられる！」という事を信じられる自分がいるので、私は一歩前へ踏み出す勇気を持つ事ができます。自分を信じられるようになると失敗が怖くなくなり、失敗が怖くなくなるとチャレンジできる勇気が持てるようになります。ほんの少しの勇気を持った事で、少しずつでもできる事が増え、新しい自分や世界に出会える事は、大人になった今でも嬉しいです。

私の子育て

私には、四人の子どもがいます。高校一年の長女、中学一年の男女の双子、小学四年の三女です。私が子育てにおいて一番大切にしている事…それは、自分の足できちんと立てる大人に育てる事です。自分の足で立つ為には、自分に自信がないとできません。また、自分というものを持っていないとできません。

そのような思いから私は、子どもたちには小さい頃から色々な経験をさせてきました。特に高一の長女は、一人目で時間もあった為、小学四年時に三泊四日の無人島キャンプを、小学五年時には富士山登山を経験させました。後から聞けば、無人島では寂しくて泣き、富士山では登山が辛くて泣いたそうです。自分との戦いだったと思います。親ですから、もちろん心配はあります。ですが私は、子どもが持つ力を信じています。長女は多くの仲間や周りの方に助けて頂き、一回りも二回りも大きくなって毎回帰ってきました。色々な経験を通して、高一になった長女はとても打たれ強い、芯のあるたくましい女性に育ちました。きっとこの先何があっても、長女は自分で自分の人生を切り開いて行けると思います。

末っ子で小四の三女も同様に、小さい頃から泊まりのキャンプ等一人で行かせています。最初は、「行かない。」「一人で行けるかな。」と言っていた三女ですが、今では楽しくてしょうがないらしく、自分で何かしらキャンプだのスキーだのチラシをもらってきては、「行きたい。」と言っています。学校では初対面の人とコミュニケーションを取る機会はなかなかないので、私はそういう機会を利用して三女を一人で参加させています。三女も逆にそれが楽しいようです。こういった経験を通し三女は、「困った時は周りの人に声をかけて助けてもらったり、わからない時は教えてもらえばいいんだ！」という事を学びました。そして三女も、「私、大丈夫！できる！」という自信を身に付けました。

私は子どもに、人生をナビに例えてよく話をします。ナビで目的地（例えば、なりたい自分、将来の夢等）を設定すれば、自ずと自分のする事が観えてきます。ですが、車のナビと私のナビでは違う所があります。車のナビは最短で目的地に着けますが、私のナビは寄り道（経験）が多ければ多い程良く、時間がかかっても大丈夫です。寄り道は、楽しい事はもちろん、休憩も、泣ける事も、苦しい事も、悔しい事も全て含みます。またナビ設定は、子どもに考えさせ、親である私は子どもの様子を見ながらアドバイス等しますが基本見守ります。理由は、子ども自身が自分はどうしたいのか考え、自分の思いや考えを大切にして欲しいからです。自分で考える事を身に付けた子どもは、何があっても生きていけると思っています。

まとめ

高一の長女は、将来の夢もでき一生懸命勉強しています。「人は人、自分は自分」という芯の強さも持っています。中一の長男は勉強と部活に、次女は走る事が大好きで、陸上部で本気で頑張っています。小四の三女も夢があり、その夢に向け励んでいます。振り返ってみると、子どもたちが自分というものを持ってるようになったのは失敗を経験したからであり、その経験から子どもなりに悔しさや悲しさを学んだからです。子どもたちは、もう二度と同じ気持ちは味わいたくない、味わわないと決めているようです。

最近よく聞く自己肯定感。「子どもを褒めて、成功体験をさせましょう。」と言われています。子育てで一番大切な事は、親である私たちが子どもの個性を認め、子どもの全てを受け入れる事。それをしてもらった子どもは自分を大切にでき、どれだけでも羽ばたいていきます。またその時に、失敗も含めいろいろな経験をする事で、しなやかでたくましい心、広い視野、優しさ、自信や自分軸を持てるようになります。

以上の自分の経験と思いから、これからも母である私は「体は食べ物で、心は言葉でできている」を胸に、今まで通り、子どもたちにおいしくて元気になれる食事を作っていくと共に、私が母からしてもらったように「大丈夫！」という魔法の言葉をかけながら、「あなたならできるよ。失敗したって大丈夫！やってごらん。」と子どもたちを送り出していきます。

そして、楽しくチャレンジする事をベースに、一緒に喜んだり、休憩したり、時にはどうにもならなくて後退したりを繰り返しながら、子どもたちを見守り、子どもたちが何でも話せるような親子関係や信頼関係や環境を作るよう心がけていきます。

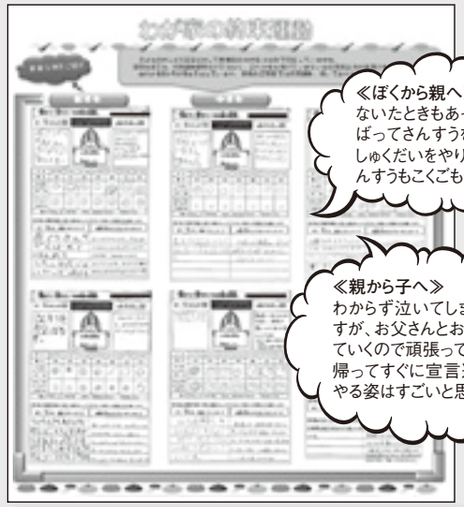
私たち親が、子どもが自信という種を育めるよう土（＝土台）作りをし、そこに「あなたの一番の応援団長よ。」という愛情たっぷりの水を与える事で、子どもはきっとオンリーワンの花を咲かせる事ができると思っています。そして、自分の足で立てる大人になれると思っています。

家庭教育応援団！～家庭教育学級取材記～

実践紹介1　土岐市立妻木小学校

ポイント ○ 学習・取組内容を全保護者が共有することで、全家庭の家庭教育力をアップ!

妻木小学校では、家庭学習の習慣をつける取組を継続的に実施しています。保健母親部員さんの発案で、その取組を応援する「話そう!語ろう!わが家の約束」運動が実施されました。取組終了後に「家庭教育学級通信ほほえみ」で素敵な活動を実践カードとともに紹介し、意識の継続化を図っています。また、「ファミリー読書」活動で各家庭から紹介された親子の推薦本をまとめ、人気の本等を同じく通信で紹介することによって、読書週間や読み聞かせ、今後の「ファミリー読書」の活動へ役立てようとしています。



≪ぼくから親へ≫
ないたときもあったけれど、がんばってさんすうをやり、すすんでしゅくだいをやります。これからさんすうもこくごもがんばります。

≪親から子へ≫
わからず泣いてしまう日もありますが、お父さんとお母さんも助けていくので頑張って下さい。家に帰ってすぐに宣言通りに宿題をやる姿はすごいと思います。

11月18日8時15分から 本の読み聞かせ会開催
愛する子どもたちのために
読み聞かせをしてくださる方を募集しています

年度当初に保健母親部員さんと教頭先生がしっかりと話し合い、信頼関係の上に家庭と学校が連携した取組を進めています。また、タイミングよく「家庭教育学級通信」を発行し、家庭教育学級に参加できなかった方々にも学びを広め、全保護者の家庭教育力を向上させようという工夫が光っています。家庭教育学級の内容を全家庭に知らせたり、「話そう!語ろう!わが家の約束」運動を在宅取組として実施したりすることで、全家庭の教育力がますますアップしています。

実践紹介2　養老町立東部中学校

ポイント ○ 生徒会の取組確認+講話+子育てサロンで家庭内のよりよいコミュニケーションを考える

「子どもをネットトラブルから守るだけでなく、思春期の子どもたちとよりよいコミュニケーションをとりたい」という願いのもと、本家庭教育学級が開催されました。

親子で一緒に

東部中学校情報モラル宣言の確認（生徒会執行部）

①インターネットで知りあった人とは会いません
②個人がわかる情報を載せません
③22時以降は使いません
④人の悪口を書き込みません

演題「スマホ・ケータイ安全教室」

講師 山崎由香里氏（NTT ドコモ）
・インターネットの特徴（生活を便利にするが危険もある）
・SNS に関する具体的な危険事例の紹介
・大切なことは
　①フィルタリングを必ずかける
　②親子で話し合ってルールを作り、守る
　③相手の気持ちを思いやる
　④トラブルにあってしまったら大人に相談する

子育てサロン（「家庭での親子のコミュニケーションを考える」）

・「家族で話をする時はスマホを触らないようにしています。」
・「塾や習い事の送迎の時がチャンスなので、じっくり話をするようにしています。」

すでにある「東部中学校情報モラル宣言」を親子で確認後、親子一緒に講話を聴く活動を仕組んだことで、生徒と保護者、学校が共通歩調で取り組む環境が整いました。また、その後の「子育てサロン」で、保護者がざっくばらんに悩みを相談したり、先輩保護者から学んだりして、よりよい家庭内のコミュニケーションのあり方を考えることができました。

実践紹介3　岐阜市立芥見小学校

ポイント ○ 子どもとふれあう時間をきっかけにコミュニケーションを深める
「みんなでハグ♥家族でラブラブデー」

「人はハグをされると“幸せホルモン”とも呼ばれるオキシトシンが分泌されます。このホルモンはストレスを軽減させて、愛情や信頼などの感情を呼び起こすと言われています。子どもとふれあえる時間は長いようで短いです。小学生の時期にふれあう時間を大切にしましょう。」という成人教育委員会の呼びかけのもと、取組がスタートしました。

取組の内容

① 7月24日～30日の1週間取り組む。
② 祖父母、親子、兄弟姉妹と（だれでもOK）ハグする。
③ 各家庭で時間やルールを決める。
　・寝る前に「おやすみ」と言いながら
　・朝起きたら「おはよう」と言いながら
　・ほめた後やお礼の言葉と一緒に
　・何もしなくても「大好き」のしるしに
④ 夏休み明けに提出。その後、集計して結果報告。

取組カードと児童・保護者の感想

実践カード　芥見小バージョン

ハグをすると、した人もされた人も笑顔。気持ちが落ち込んだ時にもしたいです。（高学年児童）

心が温かくなり、笑顔になれた。（高学年児童）

ハグをすると、楽しい気持ちになりました。これからもハグをいっぱいしたいです。（中学年児童）

お母さんのからだがきもちよかった。（低学年児童）

仕事に行く時「行ってきます」と言ってギュッ。力が湧いて頑張るぞ!ハグってすごい力です。（高学年保護者）

照れくさい感じもあったが、親としてはうれしい企画でした。（高学年保護者）

ハグする一瞬、気持ちが落ち着き、何でも話せる環境が作れたと思いました。（中学年保護者）

ハグをすると自分の普段の言動を振り返ることができました。（低学年保護者）

「みんなでハグ♥家族でラブラブデー」を「話そう!語ろう!わが家の約束」運動として実施し、名称も内容も話題沸騰!報告においてもうれしい反応が続々と寄せられました。成人教育委員会からの報告は「この結果から家族には心理的な結びつきやスキンシップが必要なことを再認識することができました。」と結ばれています。

コミュニケーションのとり方や深め方は、子どもの発達段階や各家庭の実情によるところもあると思いますが、芥見小学校の素敵な取組もぜひ参考になさってください。

**県のホームページでは、他にも家庭教育学級の情報を発信中！
ぜひご覧ください！！**

－掲載内容－
・平成23～27年度家庭教育学級の実践
・家庭教育学級運営マニュアル「みんなで子育て」
・家庭教育プログラム「みんなで子育てⅡ（乳幼児期編）」
・家庭教育プログラム「みんなで子育てⅢ（小・中学校編）」
・家庭教育プログラム「みんなで子育てⅣ（次世代編）」

岐阜県　家庭教育学級　検索

お気軽にご相談ください！
家庭教育学級や企業内家庭教育研修等、内容から講師選定までご相談に応じます。

岐阜教育事務所	☎058-278-3059（直通）
西濃教育事務所	☎0584-73-1111（411）
美濃教育事務所	☎0575-33-4011（441）
可茂教育事務所	☎0574-25-3111（445）
東濃教育事務所	☎0573-26-1111（373）
飛騨教育事務所	☎0577-33-1111（424）

岐阜県立東濃特別支援学校

所在地＝土岐市泉町河合根ノ上1127－10

教育目標

子どもたちの命を守り、願いや夢を実現する教育を実践するとともに、将来の社会参加や生活自立を可能にする教育活動の開発と創造に努める

1 学校紹介

岐阜県立東濃特別支援学校は、昭和五十五年に知的障がいの養護学校として開校し、平成二十八年度、知的障がい、肢体不自由、病弱を対象とした総合的な特別支援学校となりました。現在は東濃西部三市（多治見市、土岐市、瑞浪市）を校区として児童生徒が在籍します。

「子どもたちの命を守り、願いや夢を実現する教育を実践するとともに、将来の社会参加や生活自立を可能にする教育活動の開発と創造に努める」を学校教育目標に掲げ、〈【丈夫な子】自分の体や命を大切にする。【明るい子】地域とつながり、明るくたくましく生活する。【努力する子】できることを増やし、願いや夢を実現する。〉という願う子どもの姿を設定し、教育活動を行っています。

▲地域の文化施設で行った学校祭での様子

2 教材集の発行

本校では日頃より、教師が子どもたちと向き合う中で一人一人の思いを受け止め、試行錯誤しながら教材・教具を作っています。それらの中から、身近な材料で簡単にできる手作り教材をまとめ校外に発信しようと、本にして出版しました（平成二十八年十一月三十日）。

▲出版した本

掲載されている一つひとつの教材は、教育活動における育てたい力を教科・領域ごとに系統的に整理した本校オリジナルの「キャリア学習プログラム」と関連しており、教科・領域や発達段階が分かりやすく示されています。

教育現場や関係機関の方々はもちろんのこと、保護者や地域の方々にも手に取っていただき、支援のヒントとして役立てていただけたら幸いです。

3 中学部授業の様子

題材名「電動工具を使った組み木の置物作り」

1、題材について

本校中学部（在籍生徒四十五名）は週二回作業学習を設定しています。作業班は、縫製、農芸クラフト、窯業、木工があり、各作業班に分かれ学習しています。木工班は十一名で構成され、電動工具（糸のこ、電動ドリル）を扱って作品を作る生徒は五名です。

組み木作品作りは木の性質上やり直しができず、木材を切るときや穴をあけるとき等は手元に意識を向けて、慎重に取り組む必要があります。また使い方を誤れば危険な電動工具を扱うことを通して、知的障がいが有る生徒にとって分かり辛い「集中する」「丁寧に行う」ということを理解し、生活に生かしてほしいと考えています。

2、支援の工夫

単純なデザインの組み木から取り組み、徐々に補助線を減らして、デザインの複雑な作品に挑戦できるようにしました。また、作品を作り上げた喜びを感じられるように、ビー玉を木材にはめ込み、作品の質が向上するようにしました。そして、季節感のある作品を作製し、販売会を年に三回設定し、家庭で飾ってもらうことを目標にしました。

3、活動の評価

あえてやり直しができない組み木作品を学習に取り入れることで、生徒が時間いっぱい集中して取り組む姿、量ではなく質に意識を向ける姿が見られます。また作品を購入された方からの評価は、子どもが作ったものという面からの評価ではなく、商品として質が高いと評価を受けていることも、生徒の意欲を向上させています。

▲作業学習の様子

4 PTA活動の紹介

本校のPTAは、本部役員会、四つの専門委員会、三つの地区委員会で構成されます。

1、本部役員会

熊本地震の被災地応援活動として、募金活動と本校高等部で制作しているエコバッグを被災地の支援学校の子どもたちに贈りました。また、親子でレクリエーションを楽しむ企画を新しく立ち上げ、一月に実施する予定です。現在、〝障がいがあるからこそスポーツをしよう！〟と、参加を呼びかけています。

2、専門委員会

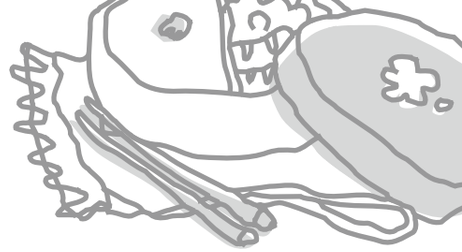
ベルマークの収集と集計を行う厚生委員会、施設見学や健康に関する研修会を行う教養委員会、ボランティアの募集や防災に関する研修会を行うボランティア委員会、年に四回の会報を出す会報委員会があります。各委員長を中心に工夫を凝らし、特色ある活動を行っています。

3、地区委員会

土岐地区、多治見地区、瑞浪地区の三地区に分かれています。各地区で資源回収や近隣の施設見学等を行っています。学校祭では遊びコーナーを開設し、地域の子どもたちも含め、多くの子どもたちが楽しみました。

▲資源回収の様子

お弁当の日



岐阜市立岩野田北小学校PTA

お弁当の日Project

本校で毎年行われる『なかよしハイク（全校児童で近くにある畜産センターへ出かけ、縦割り活動をする）』に合わせて、『お弁当の日』を実施しました。

近年は『執行部だより』で『お弁当の日』の呼びかけをしてきましたが、今年度は児童や保護者に更に周知するために、取り組みを増やし、活動が盛り上がるように努めてきました。

他校の母親委員の方にも相談し、『時間のある夏休み中にお弁当作りの練習をしてはどうか』というアドバイスをいただきました。本校の栄養教諭にも相談し、目標を『～食育～将来にわたって自分の食事は自分で管理する、食の自立を促す』と設定しました。

一学期にはまず、『お弁当作りに挑戦！ｉｎ 夏休み』という企画を立ち上げました。そこでは、①おにぎりを作る②弁当箱に詰める③おかずを一品つくる、という三つの項目を作り、低学年は①、中学年は①と②、高学年は①～③という段階で、どれか一つでも取り組めるよう呼びかけました。

この取り組みには、一八三名の回答がありました。結果を受け、取り組みに協力してもらった方々に感謝するとともに、さらに周知していくことの必要性を感じました。盛り上がった気運を下げないため、十月の『なかよしハイク』まで、継続して取り組みを行うことにしました。

まず、栄養教諭による『お弁当のお話』を、週に一回、計五回、給食時間の放送で行ってもらいました。放送では、お弁当を作るコツや、バランスの良いお弁当について話をしてもらいました。また、本校の読み聞かせボランティアの方には、『食に関すること』をテーマにした本を読んでもらうようお願いしました。『十一匹のねことあほうどり』『きょうのごはん』など、食事に関係があり、ワクワクするようなお話を中心に読んでもらいました。

十月には、五・六年生を対象とした『親子料理教室』を開催し、栄養教諭から、お弁当を作るときのポイントや、卵、野菜のメニュー、新しいおにぎり『おにぎらず』について教えてもらいました。これらの取り組みについての詳しい内容や結果を、『おべんとうの日Ｐｒｏｊｅｃｔ通信』として、保護者の方々に発信しました。

その他にも、夏休みの取り組みや『親子料理教室』での献立をパネルにし、校内に掲示しました。『なかよしハイク』の直前には、『おべんとうの日ｉｎなかよしハイク』として、お弁当作りの過程を七つの段階に分け、『できることだけ』でよいので（無理のないよう考慮して）協力をお願いしました。七つの項目は次の通りです。

親子料理教室

栄養教諭による放送

なかよしハイク弁当

①お弁当の献立を決めよう
②材料を買ってこよう
③料理を作る準備をしよう
④おにぎりやサンドイッチを作ったり、ごはんをお弁当に詰めたりしてみよう
⑤おかずを何か一つ作ってみよう
⑥お茶を水筒に入れよう
⑦お弁当を包んで、リュックに入れよう

夏休みの取り組みの反省から、誰もが何か一つは取り組めるような項目にしました。

いよいよ『なかよしハイク』当日となりました。『おにぎりを作ってきたよ』『卵焼きを焼いたよ』と話してくれる子どもたちの顔は、どこか誇らしげでした。『ちょっと焦げちゃった…』と恥ずかしそうに話してくれた子も、『おいしかった?』と聞くと、『おいしかった！』と笑顔で返してくれました。取り組みの回答は三六六名にのぼり、夏休みの取り組みに比べ、一五〇名以上も増えました。全ての項目をクリアーできた『おべんとうマスター』には、八十九名が該当し、カードを使って表彰することにしました。

取り組みの内容を詳しく見てみると、多くの子が、自分でお弁当の献立を考えた様子が伺えました。おにぎりを作ったり、ウインナーや卵焼きを焼いたり、ちょっと頑張ってウインナーの『飾り切り』に挑戦したりする子もいました。高学年では、『お弁当のお話』で聞いた、『おにぎらず』を作った子もいました。

保護者からは、家での弁当作りの写真を提供してもらうこともできました。『なかよしハイク』の昼食時には、ＰＴＡの広報委員や本部役員、先生方にも協力してもらい、お弁当の写真を撮ってもらいました。撮った写真を使ってパネルを作成し、校内に掲示しました。

一連の取り組みを通して感じたことは、大人も子どもも、食事やお弁当づくりを『もっと気楽に考えてほしい！』ということでした。子どもたちが、全て手作りで作らなくても良いのです。『ちょっと子どもたちに料理でも作らせてみよう』ぐらいの楽な気持ちで、焦げたって、こぼれたって、お腹さえ壊さなければ大丈夫！という、おおらかな気持ちで取り組んでほしいと思いました。

来年度は、もっと多くのご家庭で『おべんとうの日』に取り組んでもらうために、年度初めから少しずつ、『食育』『食の自立』を呼びかけていき、更に気楽に取り組めるような活動にしていきたいと考えています。

お弁当の日パネル

school infirmary

保健室ノート

●海津市立海西小学校
養護教諭
秋澤　かおり

スクスク、ニコニコ、海西っ子!!!

Ⅰ．はじめに

海西小学校は、児童数一〇四人の小規模校です。本校児童は、単学級の上、一年生の時から（長い子は保育園から）固定された仲間の中で過ごすこともあり、互いのことをよく知っている反面、人間関係での課題があるように思います。また、テレビやゲームなどをする時間が長い子もいます。

健康面では、むし歯や歯肉炎が多いこと、給食の残量が多いこと等に課題があります。

そこで、保健室では、体と心の健康（スクスク活動）・歯の健康（ニコニコ活動）・食育（パクパク活動）を三つの柱とし、

・自分で自分の健康管理ができる子
・全校で歯の健康に取り組む子
・好き嫌いをせず何でも食べる子

に育ってほしいと考え、取り組みを行ってきました。

Ⅱ．取り組み紹介

一．体と心の健康（スクスク活動）

発育測定や朝読書の時間、学級活動などを利用して、体の仕組みや健康について、発達段階に合わせて話しています。

朝読書の時間や発育測定後、低学年の児童には、「おへそのあな」（BL出版）や「からだのふしぎ　しりたいな」シリーズ（学習研究社）などの絵本の読み聞かせをとりいれています。体の仕組みに気付かせると同時に、自分の体やお友だちの体の大切さ、命の大切さ、家族の愛情などについて伝えています。また、自分の心臓に聴診器を当てて、心臓が動いている音を聞いたり、頭や背骨を触ったりして、体の仕組みを考えることもあります。

読み聞かせの中で、

「テレビの中では、血を流しても戦っているヒーローがいるけれど、みんなはできるかな?」

「体の中には大切な物がたくさん入っているね。そんな体をたたいたりしていいのかな?」

と、考えさせる質問もすることがあります。一人ひとりが大切な存在であることに気付き、友達への温かい接し方が自然にできるようになることを願っています。

また、中学年の児童には、「いのちのまつり」シリーズ（サンマーク出版）を利用しています。特に三年学活『いのちのつながり』の授業では、この絵本を読み聞かせ、私たちの命がたくさんのご先祖様の命を受け継いできたことに気付かせています。両親の愛情により自分が生まれ、家族の温かな見守りにより成長してきたことや、自分はかけがえのない存在であることに気付くことができました。

高学年においては、運動会前の熱中症予防や、スキー研修の前のけが予防など、行事と関連した内容や、食物アレルギーや歯肉炎予防など病気の予防について保健の学習と関わらせて学習をしています。また、メディアを使うときのルールや気をつけたいことについて、丁寧に話す機会を設けています。

二．歯の健康（ニコニコ活動）

歯の健康については、全校児童がめざす目標を具体的にすることを通して、どの学年も取り組みやすい活動にしたいと考えました。正しい歯磨きの方法を全校に伝えたいと考え、自分達で歯の掲示物を作成し、実際に教室で正しい歯の磨き方を伝えました。

また、鏡を見て磨くと効果があることに気付き、キャンペーンの目標に加えました。

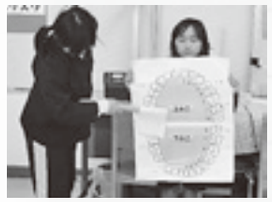
「歯を三分間、三周磨きましょう。」

「磨き残しのないように、鏡を見て、すみずみまで磨きましょう。」

と、委員一人ひとりが具体的に呼びかけました。このような取り組みを継続してきたため、むし歯が減少してきました。

三．食育（パクパク活動）

食育では、給食センターの栄養教諭が学級活動の授業に加わり、食べ物の栄養や食事のマナー、おやつの正しい取り方など、発達段階に応じて、食育の授業を行っていただき、その結果、給食の残量がだんだん減ってきています。



Ⅲ．おわりに

今後も、三つの柱を核として、子ども達がより豊かな人生を歩んでいくために、自分で自分の健康管理ができる力が育つよう、さらに取り組みを充実させたいと思っています。

pleasure

イラスト&クイズ

中島慶乃（土岐市）

PN．アルパカ（関市）

QUESTION -1

四六時中、車にのっているのは何じん？

出題・山下琥太郎（大垣市）

〈答えは41ページ〉

今も私を支える恩師

恵那市立中野方小学校　教諭
足立　悠里花

私は、自然豊かなのんびりとした町で育ちました。保育園から単学級で、中学校卒業まで学級のメンバーは変わりません。だからこそ、私達にとって担任の先生はとても大きな存在で、保護者からの期待も大きかった気がします。

小学校の三年生までは、毎年担任の先生が離任され寂しかった覚えがあります。また、一年間に担任の先生が三人も代わることもあり、やや落ち着きのない不安定な学級だったような気がします。そんな私たちを大きく変えてくださったのは、四・六年生の担任をしてくださったA先生です。

A先生は、私達に惜しみない愛情を注いでくださり、子どもながらに、学級がどんどんよくなっていくのを実感しました。不思議なことに、大人になった今でもA先生との思い出は、鮮明に残っています。

A先生は、私達が一生懸命がんばったことに対して、時には嬉し涙を流しながら褒めてくださいました。反対に悪いことには、しっかりと叱ってくださいました。日々、喜怒哀楽を共有しながら、本気で私達と向き合い関わってくださいました。私達は、そんなA先生のことが大好きになり、いつしかA先生の喜ぶ顔が見たくてがんばる学級集団になっていました。

六年生になると、自主的な取り組みもどんどんできるようになっていきました。私は当時流行っていた学校へ行こうの「ビーラップ・ハイスクール」を真似たグループをつくり、休み時間に学級や全校に披露しました。今から思うと、A先生のバックアップがあったからこそやり遂げられたことです。

A先生の授業はいつも工夫されており、楽しくやる気の出る授業ばかりでした。最も心に残っているのは体育の表現運動です。「ドライアイス」を表現する活動では、毎時間ドライアイスを水に入れて観察し、ドライアイスになりきるために、ひたすら体を動かしました。

小学校卒業後は、A先生とお会いする機会もなく、再会したのは、成人式後にタイムカプセルを開けるために集まった八年後でした。A先生は私達との細かい出来事やくだらないようなエピソードまでよく覚えてみえ、驚きと嬉しさでいっぱいになりました。大学生になった私は、教師をめざしていることを先生に伝えました。先生は、とても喜んでくださいました。タイムカプセルに入っていた表現運動のDVDは、本当に懐かしく、小学生にタイムスリップしたようでした。先生は、どうしても欲しいという私の願いに応えて、DVDに焼いて私の住んでいたアパートに手紙付きで送ってくださいました。

初任教師としてスタートを踏み出すことになった春に、A先生と二人で食事をすることができました。私は、そこで初めて、その当時の楽しかった学校生活の裏で、先生の惜しみない努力や苦労があったことを知りました。先生のお話を伺って、「私も子ども達のために精一杯がんばる教師になろう」と心に決めました。この思いは、今も変わりません。

先日、現任校で研究発表会がありました。その前日の夜、別の学校で教頭先生になられたA先生が、突然本校を訪ねてみえました。なんと、私と担任している学級の子ども達にお花をプレゼントしてくださったのです。そこには、応援メッセージまで添えられていました。『もっている力を全部出し切ってがんばってね！』と。私は嬉しくて、涙をおさえることができませんでした。

私は今もA先生に支えられ、教師としての力をいただいています。これからも、A先生のように本気で子どもと向き合い、もっている力を全部出し切ってがんばる教師をめざしていきます。

子育て半生記

多治見市立市之倉小学校PTA　相談役　井藤 あい

子育てのバトン

「今の子どもは…。」
という言葉をよく耳にします。私も言ったことがあります。ある時、
「子どもはいつの時代も同じ。ただ、周りの環境や社会が変わったのだ。」
という話を聞いて、「はっ」としました。今の社会を作ったのは、私たち親であり、そのまた親です。子ども達が悪いかのように言っていますが、実は私たち親に責任があるのではないでしょうか。

そこで自分自身の子どものころを思い返してみました。私は、三姉妹の末っ子で何でも姉と同じようにと育てられました。両親によく言われたのは
「お姉ちゃんたちは、○○だったんだから。」
と。新しいものなど買ってもらえず、お下がりばかりでした。ただ、習い事はやりたいことを何でもやらせてもらえました。サッカーにスイミング、ピアノに習字と…。

学校の休み時間は、運動場で鬼ごっこやドッヂボールをやり、家に帰れば玄関にランドセルを放り投げ、暗くなるまで外で遊んでいました。遊ぶといっても山に行ったり、ただただ外を走り回っていました。遊び道具など何もなくても、毎日何時間も遊べました。学年や男女関係なく、みんなで遊びました。

思い出ついでに、当時の給食で一番好きだったのは焼きそばでした。あと、カレーライスにババロアのクレープつつみです。男子に混ざっておかわりじゃんけんに必ず参加していました。

そんな私が親になりました。楽しいマタニティーライフをイメージしていましたが、実際には長い入院生活の末の緊急帝王切開。そして産まれてきたわが子は、お腹の中で窒息していて仮死状態。結婚・妊娠・出産と当然普通にできると思っていた私の子育ては、こんなスタートでした。保育器に入っていた為、毎日病院にミルクを届けました。そんなわが子も、もう五年生。保育園のころは、子どもの泣き声や大きな声が苦手だったので、年少児の教室に入れず、年長児の教室で半年間過ごしました。園の裏には山があり、探検をしたりどんぐりをいっぱい拾ってきたり、竹馬やあやとりなど昔ながらの遊びをしていました。

しかし、小学生になると、毎日ゲーム。友達と遊ぶといってもゲーム。私は、ゲームやスマホは悪いものだとは思いません。時代の変化とともに、子どもたちの遊びも変わりました。この情報化社会の中で、子どもたちが生き抜くためには必要なものです。子どもに与えないことが本当にいいことなのか疑問に思います。間違った使い方をしないように、きちんとルールを決め、親も勉強して、正しい使い方を教えることが大切なんだと思います。

PTA役員をやる中で、講演会などいろいろな話を聞きましたが、私の先生は母です。
「勉強やったの？」
「○○してはダメ」
「早く○○しなさい」
これは、私がついつい言ってしまう言葉です。言ってしまってから後悔します。そんな時母に愚痴を漏らすと、かえってくる言葉は決まって、
「あなたも一緒だったのよ。何度も心の中で叫んでた。」
と。その言葉どおり、私は母にこのような言葉を言われたことがありません。何も言わない母でしたが、いつも一番近くにいて、たわいもない話でも聞いてくれ、最後まで応援してくれたのを覚えています。私もそんな母でありたいです。

pleasure

イラスト&クイズ

PN. アオハライド（安八郡）

PN. ゆーた（山県市）

QUESTION-2

ソファの下にあるものはな～に？

出題・間野史奈（多治見市）

〈答えは41ページ〉

関市のPTAふれあいニュース vol.4

子どもと共に学ぶPTA活動『ぎんちゃん広場』

関市立下有知小学校PTA

下有知小学校では、九年前に校舎の耐震工事のため、秋の運動会を春に実施しました。秋の運動会を楽しみにしていた保護者も多く、運動会の代わりになる活動として、親子で参加できる「ぎんちゃん広場」を開催しました。

ぎんちゃん広場の活動は、日頃、体験できない魅力的な活動のある講座を複数用意し、親子兄弟で同じ活動に参加することで、親子が向き合い同じ活動に取り組むこと、また、講座の講師を出来る限り地元住民の方にお願いすることで、地元の方と顔見知りになり、子どもの社会性も育つことを目標に九年前より毎年、行っております。

講座終了後には、「楽しかった。来年もまたやりたい。」「親子で向き合う時間や一緒に何かをすることの大切さを感じた。」「違う学年の親さんと知り合いになれた。」などの肯定的な感想が多く聞かれ、活動は成功だと感じ来年以降も継続していきたいと思います。

地域の方と収穫の喜びを共にする「富野っ子まつり」

関市立富野小学校PTA

富野小学校は、地域から学び、地域を愛し、地域社会の一員として主体的に考える「富野っ子ふるさと学習」を行っています。その中でも最も大きな行事が「富野っ子まつり」です。

地域の方々の協力を得てもち米作りに取り組み、四月の籾撒きから、田植え・稲刈り・脱穀までの活動を通して働くことの尊さを実感すると共に、そうした作業に取り組まれる方への感謝や尊敬の気持ちを育むことができました。

十一月には、収穫したもち米を使って全校で「富野っ子まつり」を開催し、老人会や地域の健康推進委員さんに協力していただき、おいしいお餅をつきあげました。

そして地域の方とペアになってお雑煮をいただきながら交流を深めました。児童は、地域の方々や保護者の皆さんの温かい心に触れ、地域の人々に見守られている安心感を抱くと共に、喜び、感謝する心を育んでいます。

親子でふれ合う家庭教育学級

関市立寺尾小学校PTA

寺尾小学校では、家庭教育学級において親子でふれ合える活動を行っています。今年度はこれまでに、絵本の読み語り会と、親子そば作り教室を行いました。

絵本の読み語り会では、読み聞かせボランティアを行う団体の方に来ていただき、絵本を読んでいただきました。立ったり座ったり、効果音をつけたりするなどいろいろな工夫があり、親子で身を乗り出して聴きました。保護者からは「とても楽しい時間を過ごせました。大人も子どもたちも一緒になって笑うことができ、いい時間だったと思います。世代を問わず、夢中にしてくれる絵本はすごいと思いました。私も絵本は大好きなので、家でも読みたくなりました。」という感想を聞くことができ、絵本の世界にたっぷり浸ることができた素敵な一時間でした。

親子そば作り教室では、親子でそば作りに挑戦しました。出来上がっためんは、太さも長さもばらばらでしたが、手作り感があり、とてもおいしかったです。保護者からは「いざ、自分たちで作業を始めると、なかなか思うようにできず、思わず笑えてくるくらい見本とは違っていました。でも、親子でアドバイスをし合ったり、手伝ったりしながら完成したそばの味は最高でした。」という感想を聞くことができ、親子で楽しく笑顔いっぱいの時間を過ごすことができました。

夏休み、家族で「防災力アップ」

関市立上之保小学校PTA

毎年のように大きな自然災害が発生し、尊い命が失われています。関市の山間部に位置する本校区でも、防災への関心が高まってきており、今年の夏休みにPTAの呼び掛けで、各家庭で三つの取組みに挑戦しました。

①「171災害用伝言ダイヤル」体験

「伝言に何を残すことが大切かを考えて実践できた。とてもよい体験になりました。」と感想が寄せられました。

②家具などの転倒防止作業

「テレビの固定をしました。対策しなければ…と思いながらも後回しにしたことを、この機会に子どもと一緒にできてよかったです。」

など、多くの家庭から取り組みを支持されました。

③「わが家の防災マップ」作り

地域のハザードマップで避難所を調べ、歩いて経路を確認した家庭がありました。避難するタイミングを立地条件に合わせて決めた家庭もありました。

今回の取り組みをきっかけに各家庭での『防災力』が少しずつでもアップして、いつ起きるかわからない災害に対して備えていきたいです。

私が出会った1冊の本【続29】

千本松原

岸　武雄　著
あかね書房

中津川市立付知南小学校ＰＴＡ　北原　知佐子

小学校三年生の夏、私が通っていた小学校は新校舎に建て替えられ、これまで見たこともない明るく居心地のよい図書室に出会いました。その時から、私は本を読む楽しさを知り、当時の先生から「これは岐阜県の話だよ」と聞いて手に取った本がこの「千本松原」でした。

自分が想像していた物語とは全く違い、読み終えた時の、強烈で、何とも言えない読後感を今でも覚えています。

江戸時代中期の美濃の国、木曽三川（木曽川・長良川・揖斐川）で洪水が多発することから幕命により、遠く離れた薩摩藩の侍たちが三川分流工事を行った時の物語です。薩摩藩士による宝暦治水は、五十名以上の藩士が自害したというだけで悲壮感漂う事件です。

しかし、それだけではなく、この物語の中には、美濃の百姓衆の様々な思いや、労役を命ずる幕府の嫌がらせによる自害に至るまでの複雑な思いが描かれ、心が揺さぶられます。

薩摩藩がなぜ縁もゆかりもなく遠く離れた美濃の国の川を改修工事するのかは主人公与吉少年と行動を共にする弥平じいの言葉で語られており、大人も子どもも分かりやすく史実を知ることができます。

治水工事が始まってからの美濃の国の百姓たちは薩摩藩から日当がもらえることに目がくらみ、一日でも工事が遅れるように手を抜く者、そんな考えは薩摩の衆に申し訳ないと、危険で辛い工事現場の仕事を必死で進める者、物語に登場する様々な立場の百姓を、自然と応援したり批判したりしながら、「本当に、当時は皆生きるのに必死だったのだろう」と想像し、物語を読み進めました。

主人公の与吉は好奇心旺盛な十二歳の少年。

自分たちの国を救うために命をかけて工事を引き受けた薩摩の総奉行平田靱負をひと目見たいと、屋敷に忍び込んだのに見つかってしまいます。その時に出会ったのが、薩摩藩士浜島紋右衛門で、その後も作品中で与吉とかかわりをもち、よい関係を築きます。

浜島紋右衛門が祭の夜、与吉と東の間の時を過ごし、月夜の川を二人で泳ぐ場面は、これから先に起こるであろう悲劇を予感させるとともに、史実に記されている「五十人以上の自害」を一言で終わらせられない一人一人の思いがあることを感じさせます。

三川分流工事に伴い、植えられた松は帯のように連なり「千本松原」と呼ばれ、現在その北端には宝暦治水に感謝する輪中の人々が作った治水神社があります。平田靱負をはじめ、この工事に命を捧げた八十余名の薩摩藩士に思いを馳せて一度この地を訪れたいと思います。

この作品については単に物語を楽しむというより、歴史の教科書に掲載されることのない事件について、児童文学の世界で子どもたちに語り継がれていくことへの意味を強く感じます。私だけでなく、多くの子どもたちに読んでほしいと願う一冊です。

転生したらスライムだった件

伏瀬　著
マイクロマガジン社

大垣市立上石津中学校ＰＴＡ　川本　秋美

本との出会い

元々は、書店に行ったときにこの本からコミカライズされたものが目にとまりました。私も子どもも漫画、活字にかかわらず、面白そうな本が好きだったので、タイトルや絵柄から気になったのです。

初めて目にとめてから半年程たって購入しました。読んでみると面白い。子どもも気に入ったらしく、

「これには原作の小説があるみたいだから、そっちも欲しい。」

と要望がありました。

いつも行く書店の二～三店舗には置いてなく、少し足を伸ばして遠くの書店まで探しに行きました。五店舗目にしてやっと発見して購入できました。

感動のシーン

感動とは少し違うのですが、印象に残ったシーンがあります。

主人公がある人物の命の終わりを見守るところです。その人は主人公と同じ世界から来た人ですが、その能力がいずれ暴走して多くの命を奪ってしまうのでは…と悩んでいました。

主人公と出会って程なく、能力が暴走してしまいます。しかし、主人公に倒されることで、人の命を奪うことなく自らの命の終わりを迎え救われたのです。

主人公は、その人の想いを受け継ぎ、伝えることを誓い、その望みをかなえます。

私はここを読んだとき、ものすごく考えさせられました。意図せず起こってしまうことに対して、また、予測しても越えられないことに対して私はどうしてきたんだろうと考えました。

子どもは別のシーンが気になったようで、このシーンはあまり覚えていないようでした。そういう意味でも印象に残りました。

お勧めの理由

本との出会いのところでもわかると思いますが、子どもと一緒に面白く読める本です。お互いに色々聞いたり、気になったシーンを話したり、共通の話題で会話ができて、それも楽しいです。

もう一つ、この本はファンタジーですが、ゲームを小説にしたような話になっています。普段本を読まない子でも、ゲームをする子ならば非常に読みやすいと思います。ゲームで聞き慣れた言葉や、見慣れた登場人物？などが沢山出てくるので、面白く読めると思います。

Ｗｅｂ版、ノベルズ、コミカライズとありますので、自分が読みやすいものから入れるのもよろしいかと思います。

pleasure イラスト&クイズ

ＰＮ．あおりんご（関市）

ＰＮ．３７４５８（揖斐郡）

QUESTION -3

「め」「はな」「は」は
あるけれど「くち」
「みみ」はない。
これ、な～んだ？

出題・今西由奈（羽島市）
〈答えは41ページ〉

立ちどまらない保険。
MS&AD
三井住友海上

初めて、
という不安。

ここから始まる、
という希望。

未来は、
希望と不安で、
できている。

明日をつよく。三井住友海上
www.ms-ins.com

話そう！語ろう！わが家の約束

大切なコミュニケーションの場　本の読み聞かせ

下呂市立東第一小学校PTA副会長　兼山 壽伸

兼山家の巻 66

我が家は、夫婦と小五の息子と小二の娘の四人家族です。兼山家では、これまでに約束ごとを何個か作ってきましたが、ほとんど守られてきませんでした。しかし、唯一続けていることがありますのでご紹介します。

★就寝前に絵本を読み、九時には就寝！

上の子が生まれて、半年たった頃から続けていることですが、図書館で借りてきた絵本を就寝前に必ず親子で読み聞かせをします。ほぼ、親が読み聞かせをすることが多いですが、子どもたちが読んで聞かせてくれる日もあります。

本の読み聞かせをし始めた最初の目的は、幼少期に本の読み聞かせをすると脳の発達に良いと聞き知育目的で始めたことですが、今は、一つの本に親子が集まり、読んだり聞いたりする大事なコミュニケーションの時間です。

また、特別なことがない限り、九時には、就寝し両親のどちらか一方は必ず、添い寝をします。

この約束ごとは、子どもたちが「もう、大きくなったから絵本は、添い寝は、勘弁して！」と言うまで、続けていこうと思っています。

小山家の巻 67

我が家の約束は

一　家事の手伝い（風呂掃除、ごみ出し、食事の準備と片付け）をすること。
二　夜九時以降は、テレビ、ゲーム等は禁止。宿題が終わるまでは、ゲームはできない。
三　家族それぞれの趣味に付き合うこと。

夜九時までには子ども部屋へいって寝ることにしているので、その後ゲーム等はできません。どうしてもやりたい時は、朝早く起きてやることにしています。早く寝ることで朝六時に起床できるので、リズムができ、朝食をしっかり食べることができています。

子どもたちはそれぞれ大好きな事（鉄道、歴史、恐竜）があり、その趣味の時間をできるだけ家族みんなで過ごすことにしています。もちろん興味が持てない時もありますが、少しでも自分にとって楽しい所を探すようにします。このことで自然とよいコミュニケーションがとれます。そしてこれから先、他人との付き合い方や、気配りを学んでほしいと思っています。

関市立富野中学校PTA　小山　裕子

趣味の時間を大切に

子の思い

昨年のおはかまいり

高山市立北小学校
三年　小池 峻太

ぼくが二年生の時、大好きだった大ばあちゃんと二ひきの犬が亡くなりました。みんなぼくが生まれた時からいっしょにいた大切な家族でした。

今、犬は動物のお寺にねむっています。あまり行くことができないけど、また会いたいなあ、遊びたいなあと、いつも思っています。

ご先祖のおはかまいりには毎年行っていたけど、ぼくは何をおいのりしたらよいのか分からなくて、手を合わせるだけでした。でも、昨年はおはかまいりに行く数もふえ、やさしかった大ばあちゃんの顔を思い出しながら、「いつも見守ってくれてありがとう。これからも交通じこや病気にならないように見守っていてね。」とおいのりするようになりました。ぼくはおはかをそうじして、水をかえて、また来るねと言って帰ります。

ご先祖さんの顔をぼくは知らないけど、毎日元気にすごして、学校で友だちと仲良く遊べるのは、いつもご先祖さんや大ばあちゃんに、天国から見守られているからだと思います。これからもおはかまいりに行って、ぼくのことをみんなにたくさん話していきたいと思います。

まだ六年…あと六年…

瑞浪市立日吉小学校
六年　眞鍋 晃

「えっ、何でどうして？」夜のニュースを家族で見ているときのことです。テレビでは保育士が少なくて保育園に入れない、という問題を取り上げていました。「そんなの、保育士の人の給料を上げればいいんじゃないの。」と、そのときのぼくは簡単に考えていましたが…。

最近、選挙で投票できる年齢が、二十歳から十八歳に引き下げられました。つまり、ぼく達は高校三年生になったら政治に参加することになります。ぼくの一票で選ばれたリーダーが政治に参加することで、ぼく達の意見が取り入れられるのは、とても素晴らしいと思います。そうしたら、さっきのぼくの考えも実現されるかもしれません。でも、テレビを少し見たくらいの考えだからぼくには責任がもてません。そもそも、リーダーを選ぶための選挙にしたって「まだ六年も先のこと」と、正直他人事のようです。そんなぼくに選ばれたリーダーは、本当に大丈夫なのでしょうか。

ぼくにもリーダーの気持ちは分かります。五年生の時、学校の焼き芋大会で、会の司会と焼けるまで待つ間の遊びの進行をしました。司会は難なくすることができました。しかし、その後の遊びではスケジュールのことで頭が一杯になってしまい、ドッチボール終了の時間を間違えてしまいました。

ぼくはすぐに他の子に文句を言われてしまいました。ふざけていたわけではないのに文句を言われて、嫌な気持ちになりました。でも、よく考えてみると、ぼくもリーダーに文句を言ってしまうことがありました。「リーダーがやってくれるからいいや。」と考えていた自分に気づきました。無責任に意見を言うだけでは、リーダーも困るし、物事はよい方向には向かっていかないと、今のぼくは思います。

自分達のリーダーを責任をもって選ぶのが選挙です。そのために、必要なこと。例えば、いつでも選挙ができるように、常に世の中の動きを知り、自分の意見をもつこと。そして、いつも誰かがやってくれるからいいというのではなく、選ぶ側のぼくも責任をもって意見を言える自分になることが大切だと思います。簡単に考えていた保育園問題についてもう一度考えてみました。給料を上げればいいと思っていたけど、ぼくにはそのお金がどこから出せるのか見当もつきません。そんなぼくにも選挙ができるまでにあと六年あります。それまでには自信をもって意見が言えて、責任をもって投票用紙にリーダーの名前を書けるような自分になりたいです。

家族が教えてくれたこと

海津市立平田中学校
二年　伊藤 謙伸

僕は小学校の頃、「いじめなんて自分はされない」と思っていました。しかし、ある日突然、集団から言葉の暴力を受けるようになったことがあります。その時、僕はずっと学校で一人でした。恥ずかしく、学校の誰にもなかなか相談ができずにいました。でも僕には家に家族という味方がいました。思いきって家族に相談すると、「どんな時も、助けてあげるよ」と言われ、とてもうれしく、頑張ろうと思いました。この経験から、一人で悩まず、いじめられていることを、思いきって、親に相談するということは、とても大切なことだと思うようになりました。

また、僕はいじめられている人を見て見ぬふりをする人は恥ずかしいと思います。いじめをとめることは、とても勇気がいることだと思います。いじめをとめることにより、標的が自分に変わることがあるからです。しかし、自分でとめることができなくても、先生を通していじめられている人を助けるということもできると思います。

最近は、「いじめが原因で自殺をする」という事件をよく聞きます。「相手の苦しみが分からない」からいじめがなくならないのだと思います。いじめている側は、軽い気持ちでやっているのかもしれないけれど、いじめられている側には、何十倍、何百倍の圧力となっておそいかかってきます。

自殺にまで追い込まれる前に、親や先生を頼ることをしてほしいと思います。親にいじめを伝える事は、告げ口でもないし、恥ずかしい事ではないと思います。僕はいじめを通して両親と話し合いをしました。その時父や母が、僕に教えたかったことは、「人を思いやる心」を教えたかったのだと思います。この経験から、人の心を分かる自分になろうと思いました。

今、僕にできることは小さな事しかできないと思うけど、人を思う心を大切にしていきたいです。

親の願い

危険を学ぶ、不安と向き合う

郡上市立明宝小学校ＰＴＡ
会長　髙田 賢吾

テレビを見ていると、子どもの事件や事故を耳にすることがあります。もしわが子だったら…と居た堪れない時もあります。

子どもは危機管理能力が乏しいと聞きます。親はわが子に危険や恐れと向き合うこと、親はいつも耳を傾け、守ってあげられるんだということを教えなくてはならないと思います。

そこで、覚えておくべきことは普段から教えておいたほうがよいと考え、次のことを意識しています。

- 自分（こども）のフルネーム、住所、電話番号
- 親のフルネーム、勤務先
- 助けを求める際の110や119の電話のかけかた
- 誰かが後をつけてきていると思った時はどうすればよいか
- 火事の場合はどうすればよいか

また、考えられる危険を回避するための家族の安全ルールをつくることで、子どもを不必要に不安

大垣桜高校 まんが研究部

おせちのひみつ

逆さ言葉

なつまでまつな
（夏まで待つな）

出題・今西佑羽（羽島市）

にさせることなく、緊急時の対応を教えることができます。子どもは簡単な内容でも覚えるのに時間がかかるので、根気よく続けることが大切です。実際に質問して答えさせる練習も効果がありました。子どもが正しく答えられたときには、「大事なことをちゃんと覚えたね、えらいね。」と、褒める事も忘れないようにしています。

しかし、ここで問題なのは、子どもたちが、いざという時に助けを求められそうな多くの信頼できる善良な大人たちが、子どもに関わることを躊躇するようになっている現実です。年配の人々にとっては、小さな子どもを見たら、にっこり微笑みかけ、「こんにちは」や何かしらで声をかけるのはごく自然のことに思われます。しかし、今やたいていの大人は、「子どもがひとりのときに話しかけるのはやめておこう。うっかり悪い人と勘違いされて怖がられても困るし、親からは知らない人と口をきくなと言われているはず。声をかけたら、親のいいつけを破らせることになってしまう。」と。子どもは親の不安をそのまま受け止めてしまっているのではないでしょうか。

親は、例外的な事態を判断の基準とせずに、危険を正しく見極めるよう、わが子に教えなくてはいけないと思います。子どもは成長するにつれ、自分の恐怖や不安をうまく表現することができるようになります。親や身内の者、大人たちは、そうした子どもの気持ちをいつでも聞いてやるようにし、また自分自身の不安も分かち合うようにすることが望ましいと思います。

色々な経験と挑戦を

大垣市立星和中学校ＰＴＡ
会長　伊藤 宏記

平成二十七年度にＰＴＡ本部役員になり、今年度、会長をさせていただいております。やっと職にもなれきたと思っていた九月中旬に「わが子のあゆみ」の原稿依頼が届きました。参ったなぁと困惑しながらも、改めて自分自身を振り返る良い機会と思い、頑張ってみようと思いました。

私は今年四十六才で、高校二年生の娘と中学二年生の息子の父親です。息子が通う星和中学校は、私が第四回生として卒業した学校です。卒業以来、中学校へ足を運んだことはなく、高二の娘が中学に通っていた時、ＰＴＡ実行委員会メンバーのお話しを頂きまして、約三十年振りに母校へ行き、先生方や学校活動に関わることになりました。

さて、中学校のＰＴＡ活動に親として、また、ＰＴＡ本部役員としてできる事は何かあるのか、これからの未来を生きていく子どもたちに期待する事は何かあるのかと考えました。

中学生は大人ですか？子どもですか？

私は思います。子どもから大人への第一歩であり、また親離れしていく難しい年頃です。そして、三年間の短い中学時代は自分というものを作り上げていく大切な時期でもあり、そのためにも多くの経験が必要です。

しかし、今の中学生を見てると家庭や学校や地域が必要以上に過保護にしているように思います。また、子どもたちを取り巻く環境は欲しいモノはすぐ手に入り、ＳＮＳの影響で情報は溢れかえっています。しかし一方で、子どもたちの心中は貧弱で何事にも無関心になっているような気がします。ですから中学生が大人になっていくために、勇気をもってもっと多くの事を経験したり、挑戦してほしいと思います。色々な経験や挑戦をすれば、成功や失敗もあります。その失敗や成功を生かしていくことこそ、生きる能力や力が身につくことになります。

例えばスポーツや勉学などにおいても辛い部活動の練習だったり、海外留学や研修活動をやり遂げた時の充実感や達成感は、いつしか必ず大きな「自信」につながります。だからこそ、子どもたちには多くの事に挑戦して、大人への基盤づくりをしてほしいです。

そして、更に地域の方々と一緒に取り組むような経験があるならば、社会的なマナーやルールも身につき、家庭や学校の枠を超え、世代を超えた人間関係につながっていきます。子どもたちには、先生方、同級生、先輩、後輩、地域の方々、更には広い視野で、世界とつながり、色々な人たちのつながりの中で多くの経験や挑戦をして、これからの厳しいであろう時代を逞しく生き抜いてほしいと思います。

最後になりますが、中学校ＰＴＡ本部役員になり、学校行事に参加できることや、「わが子のあゆみ」に原稿を載せさせて頂いたこと、とても良い貴重な経験をさせて頂き、ありがとうございました。そして良い機会を頂いたことに感謝し、今後のＰＴＡ活動に少しでも活かして頑張っていきたいと思います。

教育の窓

『共育』を実現するために

岐阜市立徹明小学校
教頭　安達 芳雄

最近は「教育は共育」の思いが強くなりました。共育の「共」は、地域であり家庭であるとの考え方です。

岐阜市では、平成二十七年度より〝岐阜市型コミュニティ・スクール〟をすべての公立小中学校で実施しています。本校も昨年度から学校運営協議会を立ち上げ、実働部隊となる支援推進委員会の協力を得ながら、徹明の子どもたちの健全な教育環境を整える活動を進めています。とは言っても、特別なイベントを新たに生み出しているわけではありません。もともと地域と学校、家庭と学校、地域と家庭が密接につながった校区だったからです。学校が子どもたちの安全確保をするために、時には親子活動として敷地内の清掃活動をするために、地域に向けて一声かけるだけで、瞬く間にボランティアに駆けつけてくださる人の実に多いこと！

本校の特色でもある四・五・六年生が取り組む金管鼓笛隊（エンジョイ・バンド）。二十分休みを活用した毎日の練習をはじめ、週に一時間の総合的な学習の授業を充実させ、自分たちのために、学校のために、そして何よりも大切に思ってくださる地域の皆さんのために演奏に磨きをかけています。披露の場は、学校行事だけでなく、地域の体育祭や信長まつりにも設定されており、地域の皆さんの大きな声援に支えられながら成長してきた歴史があるのです。毎年、新曲の練習開始時や新メンバーの練習時期は、音楽と言うよりまさに騒音に近い状態なのにもかかわらず、文句どころか応援の言葉をいただくばかり。そのあたたかい励ましによって、子どもたちは決してあきらめず練習を重ね、自信と誇りをもって演奏に臨みます。本年度（二十八年）の信長まつり音楽隊パレードでは、徹明小学校として披露するのは最後となったため、沿道から声援を送る地域の方の中には、名残惜しんで涙ぐむ姿も見られるほどでした。

このように、学校教育に関して熱いまなざしを向け、それぞれの立場から行動につなげる姿勢こそ、「共育」に欠かせないも

大垣桜高校 まんが研究部

カイロ

逆さ言葉

さかしたのこのたしかさ
（坂下の子の確かさ）

出題・谷井佑輔（中津川市）

のではないかと思います。周囲の大人から見守られる安心感は、子どもたちのやる気を引き上げ、思い切って挑戦してみる勇気へとつながります。

人間関係の希薄さが危惧されている昨今、学校はもちろん家庭や地域の教育力が問われ続けている中で、互いの仲をつなぐのは子どもたちだということを、徹明地域はあらゆる場で証明していると言えます。学校から応援要請をすれば、忽ち多くの人材が駆けつけてくださる素敵な街。

学校が為すべきことは、地域や家庭の宝である子どもたちに、どんな力を付けたいのか、そのためにどんな教育活動を展開していくのかを理解してもらうこと。そして、どのような支援が必要かを把握し、各立場に応じた自然なスタイルで関わっていただくことができる環境を創ることだと思います。

徹明小学校は、長い歴史に幕を閉じ、平成二十九年四月から「徹明さくら小学校」としてスタートします。『共有』を善き伝統として引き継いでいきたいと思います。

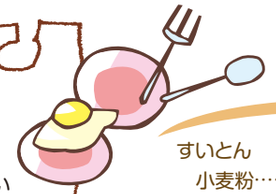
＊＊＊

お試しクッキング

あったかすいとん汁

岐阜県学校栄養士会

「すいとん」は、古くから日本で食べられていましたが、第二次世界大戦末期から終戦にかけては、主食の米の代用食にされていました。当時は、食糧が乏しく、小麦粉に大豆粉、とうもろこし粉、糠などを混ぜて嵩を増やしてすいとんを作ったり、さつま芋の茎や蔓などを具にしたりし、まともな味付けをすることもできませんでした。食べる物が乏しかった昭和21年、子ども達のために、学校給食が再開されました。このことを記念して1月24日から30日が「全国学校給食週間」とされました。現在では、各学校で感謝の心を育てる様々な取り組みがされています。世界には、食糧が足らない所もあります。十分においしく食べられることに感謝して、親子で一緒に具沢山の「あったかすいとん汁」を作って味わってみましょう。



作り方

❶ 昆布とかつおぶしを使ってだし汁を作っておく。

❷ とり肉、厚揚げは一口大に切り、にんじん、だいこんはいちょう切り、ごぼうはささがき、はくさい、こまつなは幅3cmに切る。ねぎは、斜め切りにする。

❸ 鍋にだし汁を入れて火にかけ、とり肉、ごぼう、にんじん、だいこんを順に入れて煮る。野菜が柔らかくなったら、油抜きした厚揚げを加えて煮る。

❹ 小麦粉に、塩、牛乳、半量の水を入れ、耳たぶより少し柔らかい程度になるよう、残りの水を少しずつ足しながら練りまとめ、すいとんの生地にする。

❺ ❸の鍋とは別の鍋に湯を沸騰させ、❹をスプーンですくって、落としていく。浮き上がってきたらすくって、❸の鍋に、しょうゆ、キムチを入れ、はくさい、こまつな、ねぎを加えて味を整える。

材料 4人分

すいとん

小麦粉	100g
牛乳	大さじ1
塩	小さじ1/4
水	1/2カップ弱

（小麦粉の代わりに、米粉を使ってもおいしいです。）

汁

とりもも肉	100g
厚揚げ	1/4枚
ごぼう	1/5本
にんじん	1/4本
だいこん	5cm
はくさい	1枚
こまつな	1株
ねぎ	1/2本
はくさいキムチ	好みで
しょうゆ	大さじ1
だし汁	700ml

（昆布・かつおぶし）

●栄養価（1人あたり）

エネルギー	209kcal
タンパク質	11.2g
脂質	6.4g
カルシウム	107mg
鉄	1.4mg
亜鉛	1.0mg
ビタミンA	117μgRE
ビタミンB_1	0.13mg
ビタミンB_2	0.12mg
ビタミンC	13mg
食物繊維	2.7g
塩分相当量	1.1g

■作品を募集しています。イラスト・なぞなぞ・逆さ言葉などの作品を募集しています。イラスト・絵手紙はハガキに描いてお送りください。ペンネームを使う場合にも、郵便番号、住所・学年と氏名を忘れずに。写真・書写は郵送願います。なぞなぞ・逆さ言葉は「親子ではてな?」の解答とともにお送り下さい。

宛先はいずれも　〒500-8824　岐阜市北八ツ寺町7
岐阜県校長会館内「岐阜県PTA連合会・作品係」まで。

採用の分にはお礼をさしあげます。

■本誌の購読について

本誌は年間5回発行（7・9・11・1・3月）されます。年度始め（4～5月）と7月の2回、各学校PTAを通じて購読募集を行います（1冊200円、5冊1,000円）が、年度途中でもお求めいただけます。学校または県PTA事務局へお問合せください。

■11月号を読んで

「子育て　大切な視点」の中から「親から言ってほしい言葉」＝ごめん・ありがとう・次があるさ・大丈夫・あなたならできる＝どんどんわが子に言います!!　Kさん

藍川中の寺小屋はすごく勉強にもなるし、うちの子が通っている小学校にも取り入れてほしいなあと思いました。また、あいさつ運動はうちの学校も取組んでいますが、他の学校もすごいと思いました。　Iさん

女の子は私の経験もあるのでいいけれど、男の子はどうしていっていいのか、考えます。行き過ぎもダメだし、入りすぎもダメだし、接し方の加減がわかりません。　Iさん

「子育て…」反省することがたくさんありました。気付くことも多くありました。ありがとうございました。　Mさん

「恩送り」今までに自分がいただいた「教え」を、同校の先生方に伝えていきたいと考えて居られるところ、私たち保護者も同じように「恩送り」していきたいものです。　Kさん

毎号、共感できるところが多く、うなずきながら読んでいます。「子は親の姿を見て育つ」。まさにその通りです。親もがんばらなくては、と思いました。　Yさん

いつも楽しく読んでいます。安藤大作さんのお話しは、とても考えさせられました。　Tさん

読めば読むほどハッとさせられることばかり。子ども主体で考えるようにしていますが、時に押し付けになっていることに注意しなくては、と思いました。　Nさん

手にとって読み進んで行くうちに、ふんふんと思わず夢中になります。上の子（大学生3年と2年）の時を思い出して反省。3番目の子（中学2年）の子育てに頑張ろうと見つめ直すことができます。　Sさん

■編集後記

永遠（?）のテーマである「子どもの自尊感情を育てる」特集号です。子どもの心の中の自尊感情は、親の個人的な価値観からの支配や隷属関係からは生まれません。自分を愛してくれる最も身近な人（両親や家族・友達・先生）から脅かされ、否定され続けると子どもは無力感と罪悪感からの防衛のために強がりを見せたり、見せかけの「いい子」ぶったりします。そこには、自分と言う存在が、かけがえの無い、価値のある存在であることを実感できず、自分を否定するイメージがつきまとって、身近な人や社会への不信につながります。その時その時に、子どもの話を聞くことは、子ども自身が自分の存在に気付き確かめる大切な瞬間です。「聞く」ことは、子どもの言いなりになることではなく、子どもを理解する、ということです。子どもは親の力で育てるのではなく、親・家族・友達・先生・地域の人々の中で育っていく、発達して大きくなっていく、という視点を持つことが大切だと思います。

岐阜県PTA連合会ホームページのQRコードです。「わが子のあゆみ」のバックナンバーが閲覧できます。

なぞなぞの答え

①エンジン　②ミ（ソファミレド）
③植物

■平成29年3月号のお知らせ（予告）

特集＝東日本大震災被災地交流体験に学ぶ／表紙＝宮中／学校のたからもの＝川島小・大江小・上麻生小・赤坂中／わが家の宝物＝古川中／家庭教育応援団／療育＝羽島特別支援学校／お弁当の日＝東可児中／保健室ノート＝白山小／私の先生＝本巣中／半生記＝高田中／一冊の本＝木田小・岐南中／わが家の約束＝博愛小・中部中／ボランティアニュース＝土岐小・飯地小・共栄小・濃南小／子の思い＝大野西小・桑原小・高鷲中／親の願い＝岩滝小・加子母中／教育の窓＝恵那北小・緑陽中／お試しクッキング／ふるさとの伝承＝久々野小／きらり!キッズ!＝東明小／我らが部活＝白鳥中／私たちのPTA＝穂積小

わが子のあゆみ

平成29年1月1日 発行
初春号　第68巻4号
通巻第446号

頒価　200円（年間 1,000円）
＊お問合せ申込みは、各学校または右記事務局へ。

編集／岐阜県PTA連合会広報委員会「わが子のあゆみ」編集部
発行／岐阜県PTA連合会
〒500-8824 岐阜市北八ツ寺町7 岐阜県校長会館内
電話／058-262-3257　FAX／058-262-3259
ホームページ／http://www.g-pta.com
Eメール／info@g-pta.com
印刷／サンメッセ株式会社

一　夜叉ヶ池伝説について（そのいわれ）

昔、美濃の国神戸（現在の安八郡神戸町）に安八太夫という長者がいた。

ある年、ひどい日照りが続いたため人々は困り果てていた。太夫は、かわききった田んぼで出会った小さな蛇に向かい、「雨を降らせてくれたなら、どんな願いもかなえよう」と独り言を言って家へ帰った。太夫が家に帰ると、不思議に雨が降りだし、農作物はみんな生き返った。村人たちは小おどりして喜びあった。

雨の翌日、蛇は山伏姿になって現れ、雨を降らせたほうびにと、太夫の娘の夜叉姫を嫁にとつれて、揖斐川をのぼっていった。

その後、安八太夫は、たびたび夜叉ヶ池を尋ね、龍神となった夜叉姫の姿をしのぶのであった。

二　本校の教育活動とのかかわり

①中学校におけるふるさと学習～「夜叉ヶ池伝説」の劇化

小学校における坂内ならではの豊かな体験活動を土台として、中学校では、自ら地域に働きかけたり地域にかかわる文化を創り上げたりする主体的な活動を行っている。

昨年度は、地域に伝わる「夜叉ヶ池伝説」について調べ、調べたことを劇に表わし地域へ披露する活動を行った。

次は、中学生の劇を見終えた元村長さんの感想である。

「子どもたちが、昔から地域に伝わる夜叉ヶ池の伝説をこうやって劇に表わしてくれ、うれしくて涙が出そうになった。こうして村の伝統が引き継がれていくことが、何よりの喜びだ。」

②夜叉ヶ池伝説道中祭りへの参加

坂内地区では、毎年七月の第四土曜日に、「夜叉ヶ池伝説道中祭り」が開催される。その祭りへ、毎年学校ぐるみで参加している。小中学生による和太鼓演奏（夜叉龍太鼓）と、創作音楽劇「夜叉ヶ池物語」への参加である。和太鼓演奏は、五月から練習が始まる。中学生が小学生に太鼓の叩き方を伝えていくことが伝統となっている。七月にかけて練習を積むことで、切れのいい太鼓演奏をつくり上げていく。

当日は、町内はもちろん、他市町村や県外からも来場者を迎え、大変なにぎわいを見せる。小中学生による太鼓演奏は、地域の方に元気を与えるとともに、祭りそのものを活気づける。

最後に、小学校から練習を積み上げてきた、中学三年生の思いを紹介する。

「私は、地域のみなさんに太鼓を通して感謝の気持ちを伝えたい、私たちの姿を見て元気になってもらいたいという気持ちが、年々強く大きくなってきました。私は、小さいころからこの坂内に明るく力強い音を響かせてきた太鼓の音が大好きです。この伝統を、ずっと守っていきたいです。」

▲7人による「夜叉龍太鼓ステージ発表」です。
多くのお客さんの前で、堂々と発表しました。

▲レベルアップを目指して、講師の先生に
指導をしていただきました。

▲自分たちで調べた伝説をもとに、生徒がシナリオを作成しました。
地域の方も参観される中、文化祭で発表しました。

▲5月から練習を始めた夜叉龍太鼓
中学生が中心となり、小学生に叩き方を教えます。

▲全校児童生徒7人です。
人数は少ないですが、みんなの力を合わせてがんばりました。

▲創作音楽劇「夜叉ヶ池物語」
一般の方と一緒に創作劇に参加しました。
小学生だけで歌う劇中歌もありました。緊張しましたが楽しく演技することができました。

伝統を、ずっと守っていきたい

きらり！キッズ！

岐阜市立岐阜小学校は、全校児童三四四名の学校です。本校は金華小学校と京町小学校が、平成二十年度に統合してできた学校です。校区は、金華山や長良川等の自然に恵まれるとともに、岐阜町発祥の地として歴史・文化・経済の中心地として発展してきました。また、地域人材や公共・文化施設等に恵まれた文教地区です。統合を機にコミュニティ・スクールとなり、学校運営協議会を核にした組織によって恵まれた地域の人的・物的財産を生かした連携・協働した教育活動を行っています。この活動を通して、子どもたちが自信と誇りを持って、地域の一員として主体的にかかわる姿をめざしており、その合言葉として、「ふるさと大好き」を掲げています。その活動の一部について紹介します。

（校章）
「融和」をテーマに、地域のつながりを大切にし、保護者、学校、地域の人々みんなで、子どもたちをあたたかくつつみこむような学校であることをイメージしています。

地域行事部

「地域行事部」は、児童の参加する地域行事などの企画・調整と、情報発信などの活動を行うことを目的としています。特に学校運営協議会最大のイベント、「ふるさとふれあいフェスタ」では、「ふるさとふれあいウォーク」を担当しています。

「ふるさとふれあいウォーク」

「ふるさとふれあいウォーク」は、「ふるさとを愛し、人とふれあい、つながる輪」をスローガンとして、住んでいる地域の素晴らしさを伝え、大人と子ども、地域に住む大人同士の信頼関係を築くために行っています。今年のウォークは、「きてみて！み～んなの学校！」というテーマで、六年生をリーダーとした縦割りグループをもとにし、PTAの方、地域の方等が入った即席家族で岐阜小学校や周辺地域を歩きました。

学び部

「学び部」は、「ふるさと学習」を推進、改善していくために、「学習支援ボランティアの依頼と、その人材の発掘」、「読み聞かせ」、「サマースクール」などの活動を行っています。

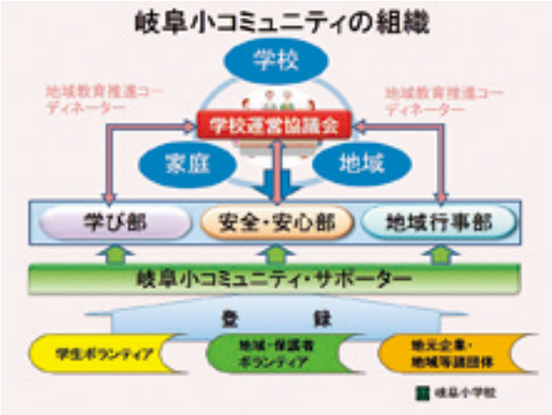
ふれあいウォークのスタートは出来上がった即席家族での記念撮影です。

この「ふれあいウォーク」では、二〇〇名を超す、多くのボランティアの方々と一緒になって、企画・設営を行っています。

屋上のポイントで、1年生の子どもが30秒間にグループメンバー全員にハイタッチを何回できるかを競うゲームをしているところです。

6年生がリーダーとなり、クイズを解いたり、ゲームをしたりしながら楽しく一緒に歩き、ふるさとを学びます。学校周辺の地域のポイントを目指して歩いているところです。

（岐阜小学校コミュニティの組織）
この組織は、学校、家庭、地域の三者が、力を合わせ、「岐阜小学校区全体で子どもたちを、育てて行くこと」を目的としています。
中心に「学校運営協議会」を置き、専門組織として、『学び部』、『安全・安心部』、『地域行事部』を設置しています。
その担い手を「岐阜小コミュニティ・サポーター」と名付け、ボランティアや地元企業の方々に登録をいただき、様々な活動に参加していただいています。
学校運営協議会と各専門部会は、地域教育推進コーディネーターがつないでいます。



安全・安心部

「安全・安心部」は、登下校および、緊急災害時における、児童の安全・安心に関する活動を推進し、情報発信などの活動を行うことを目的としています。

下校ボランティアでは、1年生を対象に、地域の方々の協力を得て「にっこり見守り隊」を組織していただいています。

「安全・安心部」所属の消防団、水防団、交通安全協会の方に助言をしていただき、『命を守る訓練』、『自転車教室』等を行っています。

「ふるさとふれあいウォーク」では、校舎内や地域の安全指導を担当していただき、事故なく終わることができました。

「サマースクール」では、学校で学んだことを、さらに発展させることを主な目的として、講師に地域の方々をお迎えし、1時間半から2時間半の体験型授業を行います。

写真は、「みんなでお料理しよう」簡単スパニッシュオムレツ、ブロッコリーサラダ、コンソメ野菜スープを1～3年生の子どもたちと共に作ってくださいました。

「ふれあいフェスタ」では、「ふるさと学習」の公開授業を行っています。「ふるさと」を通して学ぶ「ふるさと学習」では、授業サポーターやゲストティーチャーを手配していただき、子どもたちの目が輝く学びの機会を提供していただいています。

読み聞かせは、月1回、朝活動の時間に、全学年、全クラスで行われます。

子どもたちの感想

今日ふれあいウォークがありました。チームみんなと協力して楽しくできました。今まで、全然しゃべったことがなかった子と、たくさん話してとても仲良くなれました。
ふれあいウォークをして思ったことがあります。それは、
「ふれあいウォークは、地域の方々のおかげでできているんだなあ。」
ということです。参加しているみんなが笑顔で歩いていました。大人も子どもも参加できる楽しいクイズばかりでした。地域の方々に感謝したいです。
これで、小学校生活最後のふれあいウォークは終わったけれど、来年は中学生ボランティアとして参加したいです。
（6年生）

今日は待ちに待ったふれあいフェスタです。
ふるさと学習では、社会科「願いを実現する政治」を見ていただきました。今日は、市議会や市役所、税金について学習してきたことを生かして、よりよい岐阜市にしていくにはどうしたらよいのかを市長の立場で提案しました。前日までたいへんだったけど、政治について知ることができ、とても楽しかったです。
そして、今日はゲストティーチャーとして市議会議員の方と市役所の方をお招きし、提案を聞いていただきました。私たちの提案はよい評価をもらえたので、一生懸命考えてよかったです。政治は、住民の願いを実現するために、予算のことや土地のこと、役に立つかどうかなど、いろんなことを考えなければならないので、たいへんだなあと思いました。

夢中！熱中！我らが部活

北方町立北方中学校

パソコン部

パソコン部は、1年生5人、2年生5人の合計10人で活動しています。活動における目標の1つがP検（ICTプロフィシエンシー検定試験）の検定合格です。出題カテゴリーは、タイピング、一般問題（コンピュータ知識、情報通信ネットワーク、情報モラルと情報セキュリティー）、プロフィシエンシー（ICTを活用した問題解決）、実技（ワープロ、表計算）と幅広いものです。これからも楽しみながら知識や技能を身に付け、P検の合格を目指します。

卓球部

卓球部では、男子は1年生5人、2年生12人、女子は1年生1人、2年生8人の計26人で活動しています。先輩方から受け継いだ「礼儀をわきまえること」「挨拶を大切にすること」を意識して日々の練習に励んでいます。普段は、基礎練習と試合形式の練習を行い、部全体の目標と一人ひとりの目標を達成するために努力しています。技術を磨くとともに、団結力を高め、頑張っていきます。

柔道部

私たち柔道部は、先輩から教えていただいたことをもとに、今は1年生だけの5人で頑張っています。朝練では、筋トレや体幹トレーニングに取り組んでいます。そして、放課後練習では、一人ひとり目標を決めて、その目標を達成できるように、仲間と共に努力しています。柔道は力や技だけでなく、声を出すことや礼儀も大切なので、先輩方の姿を見習い意識して取り組んでいます。今後も、教えてくださる先生方や応援してくださる保護者、これまで様々なことを教えてくださった先輩方への感謝の気持ちを忘れずに頑張っていきます。

男子バレーボール部

男子バレーボール部は、2年生11人、1年生9人の計20人で活動しています。目標は、「県大会出場」です。そのために相手からのボールは必ずセッターの位置に上げて、いろんな攻撃ができるように繰り返し練習しています。チーム練習の時に、ミスをしてしまったら、同じミスを繰り返さないように、どうしたらいいか考え話し合っています。日々の練習を大切にして、県大会に出場できるように頑張ります。

男子バスケットボール部

男子バスケットボール部は、2年生6人、1年生5人、計11人で活動しています。目標は、県大会出場です。そのために日頃の練習を大切にし、一生懸命頑張っています。特に力を入れているのはシュートです。コートの中にいる5人が心をひとつにパスをまわし、その大切なボールで確実にシュートを決められるように練習しています。ゲームに出ていないメンバーも声を出しチームを盛り上げて、積み重ねた練習の成果を、大会で発揮できるように頑張っていきます。

野球部

「県大会出場」を目標として、日々の練習に取り組んでいます。新チーム最初の大会では、初戦で負けてしまいましたが、この悔しさをバネに次の大会で勝ち抜いていけるように毎日の練習に真剣に取り組んでいます。また、試合で明らかになった課題を意識して練習に臨んでいます。部活だけでなく、日常生活を大切にし、毎日の授業や学級・学年における自分の役割に真剣に取り組み、やり切ることができる野球部をめざします。

家庭科部

家庭科部は、2年生9人、1年生12人の計21人で活動しています。先輩から受け継いだ「学年を越えたつながり」を大切にして、裁縫や調理をするときには、1・2年生混合の班を作っています。今は、冬にある作品展に向けて個人製作をしたり、全校の扇風機のカバーやプロジェクターカバーを作ったりと頑張っています。ただ完成させるだけではなく、班での教え合いや協力を大切にしながら活動できるようにしていきたいです。

合唱部

合唱部は、2年生3人、1年生13人の計16人で活動しています。毎年夏に行われるNHKコンクールに向けて、日々声を綺麗に響かせ、音やリズムを合わせることを大切にして練習しています。パートごとにラジカセの前やピアノのまわりに集まって練習に励み、学級合唱では歌わないような曲に取り組んでいくなど、様々な曲に挑戦しています。来年度もNHKコンクールの予選突破に向けて頑張っていきたいです。

ソフトテニス部

ソフトテニス部は、17人で活動しています。全員が1年生なのですが「県大会出場」を目標にし、毎日練習しています。練習中は、私語なく、緊張感をもって取り組めるように心がけています。忙しい中、指導してくださる先生やコーチ、いつもあたたかく見守ってくださる親さん方への感謝の気持ちを忘れず、目標に向かって頑張りたいです。

女子バレーボール部

女子バレーボール部は、1年生5人、2年生7人の計12人で活動しています。目標は「地区大会出場」です。そのために練習中は、「チームの雰囲気」「アップの時から真剣にやること」を大切にしています。技術面では、「パスを丁寧にあげる」「3本目は必ず返す」「一つひとつの動きを確実に行う」ことを意識しています。貴重な練習時間を全力で取り組んで、地区大会出場を目指します。

女子バスケットボール部

私たち女子バスケットボール部は、2年生5人、1年生8人で活動しています。私たちの目標は『県大会優勝』です。そのために、いつでも全力で声を出し、全力で走り、全力で目標に向かうことを大切にしています。そして何より楽しくバスケができるように練習しています。あまり声が出ない時、だらけてしまう時は、自分から大きな声を出したり、注意し合ったりして、テンションを上げ、どんなつらい練習でも乗り越え、みんなで助け合って練習に励んでいます。

ソフトボール部

私たちソフトボール部は、11人で活動しています。3人の先生と2人のコーチに指導してもらいながら、県大会優勝を目標に日々練習に励んでいます。練習中は仲間が良いプレーをしたらほめ合い、悪いところは指摘し合うことを大切にしています。試合の時には、一人ひとりが声を出して、チームの雰囲気が良くなるように心がけて頑張っています。これからも周りの人への感謝の気持ちを忘れずに、一生懸命取り組んでいきます。

美術部

美術部は、1年生17人、2年生10人の計27人で活動しています。今、美術部では、自分たちの心の中にある思いや願いをもとにした作品主題を大切にしながら制作をしています。そして、その主題を表すためにさまざまな素材や画材を使って、どのような表現方法で表すかを工夫しながら、自分だけの作品を創り上げることを大切にしています。また、仲間とアドバイスを出し合い、お互いの作品の質を高めていくことも大切にしています。

英会話部

英会話部は、1年生12人、2年生14人で活動しています。毎年夏に開催されるスピーチコンテストに向けて、練習しています。また、今は町立図書館で、英語で本の読み聞かせをするために練習しています。先日は、外国の生活について話を聞くことができました。今後は、国際ボランティアも計画しています。スラスラ英会話ができるように、地域や世界のために、頑張っていきます。

陸上部

陸上部は、一人ひとりが新記録を出すことを目標に日々練習に取り組んでいます。この目標を達成するために、時間を意識して行動し、一つひとつの練習にこだわってやりきるようにしています。陸上は個人競技です。しかし、仲間とともに活動することでお互いを高め合うことができるチーム競技でもあります。辛くて苦しい時でも仲間の声援を受けて頑張れる、そんな仲間とともに、これからもひたむきに練習に励み、自己ベストの更新を目指します。

剣道部

剣道部は、東海大会・全国大会をめざして日々努力しています。以前にも増して、今はお互いに声を掛け合って、部活動開始から終わりの時間まで気合を入れて練習しています。私たちは、礼儀やマナーを守ること、先輩・後輩・仲間の和を大切にしていくこと、やる気や声をしっかり出して練習すること。この3つの「礼和気」を重んじ、自分たちの目標を達成すべく日々精進していきます。

サッカー部

サッカー部は中体連メンバー、2年生5人、1年生14人、そしてクラブチーム2年生3人、1年生2人の総員24人で活動を行っています。また、女子メンバーも活動に参加しています。「挑戦」「誇り」「感謝」を常に意識し、練習から一生懸命頑張っています。目標は「県大会出場」です。まだまだ課題はありますが、改善できるよう頑張っています。また、お互いに声をかけ合って練習に励んでいます。

私たちのPTA

下呂市立金山小学校PTA

平成二十八年度PTAスローガン

『POWER UP!』～みんなの力を大きな力に～

学校紹介

下呂市立金山小学校のある金山町は、飛騨川と馬瀬川が合流する地点を中心に栄えた飛騨街道の宿場町で、旧美濃国と旧飛騨国の国境にあります。現在は「筋骨めぐり」という商店街の昭和レトロを味わえる裏路地をめぐるツアーが人気となり市外から多くの観光客が行きかう地域となりました。この裏路地は昔から金山地域に住む子ども達が遊び回っていた場所です。

PTA救命講習会

参加しやすいPTA

子ども達の為に行う活動はもちろん、PTA会員の皆さんが気軽に楽しく参加していただける活動、思い出に残る活動、来年度以降に繋がる活動を、計画・実施・推進しています。背伸びをした難しい活動をするのではなく、今私たちにできる活動をコツコツ積み重ねる事、例年行ってきた活動に少しの知恵と労力と気遣いを加える事で参加を促してきました。

PTA親子情報モラル教室

PTAで整備した坊山登山

キコリンピック(餅つき)

キコリンピック(丸太切り)

親子ふれあい活動

本校PTAでは毎年、親子ふれあい活動を行っております。スポーツ交流会や体験型活動など毎年内容は違います。今年度は本部役員の林業に携わる方から「間伐材を使って何か親子で出来ないかなあ?」と提案がありました。金山町は山林が九十%を占める地域であり、PTAでは毎年学校周りの坊山や愛宕山の登山道を整備するなど山や木が子ども達の身近な存在になっています。そこで「キコリンピック」と名付け、親子でのキコリ体験を行いました。キコリンピックでは親子で協力し、丸太切り競争を行いました。初めてノコギリを使う児童も多く、思うように切れなくて苦戦している場面も見られました。丸太切り競争の後は餅つきを行い、みんなでお餅を食べて楽しみました。

地域イベントへの参加

半世紀続いている金山町の大イベント「イコスタDEかなやま」にPTAとして毎年参加しています。以前は会員の皆さんから不要品を提供していただき販売し、PTA会費にするバザーを行っていました。しかし、役員の負担も多く親子での活動になっていないということで昨年度からPTA親子合唱を行うことになりました。「イコスタDEかなやま」のオープニングで、地域の吹奏楽サークル「キマブラス」さんと、金山中学校吹奏楽部さんに演奏をお願いし、その演奏をバックに元気よく合唱をしました。今年は「三六五日の紙飛行機」と「花は咲く」を歌いました。地域の活動にも積極的に参加し交流しています。

親子奉仕作業

合唱練習の様子

イコスタDE金山(親子合唱)

以上のように、どなたでも参加しやすく、分かりやすく、楽しめる活動を意識した活動内容にしたことにより、たくさんの会員が参加することができるようになりました。